

高等学校 国語科

1 国語科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

(1) 国語科の目標とキャリア教育

高等学校学習指導要領において、国語科の目標は次のように示されており、国語で的確に理解し効果的に表現する言語能力を育成する教科であることを示している。様々な言語活動を通して、人間や社会の在るべき姿について考えを深め、自分の考えを形成し、言語化することは、自分や他者に対する理解を深め、今後の自己の在り方・生き方を前向きに考えようとするにつなげるため、キャリア教育と深く結び付いている。

高等学校学習指導要領(平成30年告示)《抜粋》

第2章 各学科に共通する各教科 第1節 国語 第1款 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

さらに、整理された資質・能力の三つの柱(1)(2)に共通する「生涯にわたる社会生活」について、高等学校学習指導要領解説国語編では「現実の社会そのものである実社会を中心としながら、生涯にわたり他者や社会と関わっていく社会生活全般を指している」とある。また、(3)の「生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」については、「国語が、人間としての知的な活動や文化的な活動の中枢をなし、生涯にわたる一人一人の自己形成、社会生活の向上、文化の創造と継承などに欠かせない」とあり、国語を学ぶことは、生徒一人一人の人生や社会全体の充実・発展に寄与するという意味でキャリア教育に関わっている。

(2) 言語能力育成の要としての国語科とキャリア教育

今回の改訂では、総則に学習の基盤となる資質・能力として「言語能力」が挙げられ、高等学校学習指導要領解説総則編には「自分の考えをまとめたり、他者の思いを受け止めながら自分の思いを伝えたり、ホームルームにおいて生徒間で目的を共有して協働したりすることができるのも、言葉の役割に負うところが大きい。したがって、言語能力の向上は、生徒の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視していくことが求められる。」とあり、生徒のキャリア形成において大切な言語能力育成の要となる国語科の果たす役割は重要である。

2 国語科の指導内容とキャリア教育の考え方 ―基礎的・汎用的能力を視点に一

国語科の「内容」は、[知識及び技能]及び[思考力,判断力,表現力等]から構成されている。さらに、[知識及び技能]は「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」「(2)情報の扱い方に関する事項」「(3)我が国の言語文化に関する事項」の3事項、[思考力,判断力,表現力等]は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域から構成されている。

特に、今回の改訂では学習過程の明確化が図られ、言語活動を通して理解したことに基づき、自分の考えを形成し、探究することを通して自分の考えを広げたり深めたりする「考えの形成,共有」の学習過程に関する指導事項が全ての領域において位置付けられた。

「言語能力」を育成する要の教科として言語活動の充実を図り、実社会や自分の体験の中から情報を収集・吟味したり、自分の思いや考えを広げ深め、表現の仕方を工夫して他者との多様な交流を通して伝え合ったりすることは、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の視点から見た「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成にも深く関連している。以下の表は、基礎的・汎用的能力に特に関連する国語科の資質・能力と考えられるものを、必修教科目の指導事項を踏まえまとめたものである。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関連する指導内容の例

領域／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
話すこと・聞くこと	・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる。	・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。	・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。	・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
書くこと	・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。	・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。	・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。	・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。(再掲)
読むこと	・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。

実践例（言語文化）単元名「作品から自分なりのメッセージ性をつかんで発表する」【第1学年】

1（言語文化）この単元のねらい

- 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。[知識及び技能] (1)ア
- 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。[思考力、判断力、表現力等] B(1)エ
- 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。[思考力、判断力、表現力等] B(1)オ
- 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

2 本実践とキャリア教育

生徒は、文章を読んだとき、どこか他人事として捉えたり、作者の表現意図について深く考えず表面的な理解に終わったりすることがある。そのため、学習を通して自分の考えを形成し表現することで、学んだことが将来にどうつながるかを自分事として実感することが大切である。本実践では、2つの作品を読み比べ、自分なりのメッセージ性をつかみ整理することで、文章を主体的に深く読み取る。さらに、作者が意図したと考えられるメッセージを自分と関わらせて考えることを通して、今後の在り方生き方を意思決定する場面をつくる。これにより、「自己理解・自己管理能力」を育成することをねらいとする。また、互いの考えを伝え合い相互評価する対話活動を通して、様々な他者の考えを理解し、自分の考えを伝えることができる「人間関係形成・社会形成能力」を育成する。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

他者との関わりの中で、言葉を通して伝え合い、自分の思いや考えを広げ深めることが、「自己理解・自己管理能力」や「人間関係形成・社会形成能力」の育成につながる。

中学校での主な学習活動(国語科 第3学年)

中学校(国語科 第3学年)の学習の中で、文章を比較して読んだり、話し合いで考えを広げたり、それらを聞いて、質問したり評価などを述べたりした。



本単元の流れ「作品から自分なりのメッセージ性をつかんで発表する」(全8時間)		時数
1次	『羅生門』とその原典『今昔物語集』を比較して読み、「作者はなぜ〇〇と変更したのか」という「問い」を立てる。	1
2次	問いの解決に向け、根拠を本文から探しながら読解を進め、グループ毎に「問い」の答えを解説する。	6
3次	作者の変更意図を読み取ることで見えてきた作品の「メッセージ性」と、そのメッセージを通して考えた自己の在り方生き方についてスピーチし、相互評価する。【本時】	1

4 本実践の展開

- ・『羅生門』と『今昔物語集』を読み比べて問いを立て解釈した内容を踏まえ、自己の在り方生き方と関連付けて深めた考えをスピーチすることで、自己理解を深めることができる。
- ・スピーチ相互評価で他者の多様な考えを理解し、自己評価で考えを深めることができる。
- ・考えを伝え合うことで、言葉を通して自己を向上させ、他者や社会に関わろうとする。

次	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価規準） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価規準 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価規準）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・『羅生門』と原典『今昔物語集』を読み比べ、相違点を見つける。 ・特に重要だと考える相違点について、「作者はなぜ○○と変更したのか」など自分なりの問いを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「設定（場面・人物）」や「描写（情景・心情）」の重要な変更点について整理する。変更部分に作者の意図を読み取る「鍵」があることを伝える。 ☆生徒が自分なりの問いを立てる時、「『羅生門』をこのように改変した作者の問題意識に皆さんは共感できるか。その理由を現在の自分との関わりで考えてみよう。」など、問いが自分事として内面化するように助言する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・問いの解決に向け、本文の叙述を根拠に作者の変更意図を考察し話し合う。 ・全体でグループ毎に問いの答えを解説する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ変更点についての問いのグループに分かれて話し合わせる。 ○本文中の叙述に着目し、根拠を明確にして説明するよう指示する。 ◆根拠に基づき読み取ることができているか。（発表スライドの点検 B(1) エ）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の変更点から解釈した内容と関連付けて考えた自己の生き方や社会の在り方等についてペアでスピーチをし、相互評価する。 ・ペアの発表が終わったら、一言感想等を伝えながら評価シートを渡す。 ・ペアを替えてスピーチと相互評価を数回行う。 ・代表生徒数名が全体で発表する。 ・単元の学習を振り返って自己評価し、今後の目標を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆他者の意見を受け止めて自分の考えを広げ深めることが大切であることを伝える。 ☆相互評価シートには評価項目の他、発表者の主張の要約、よかった点や気付いたことなどを記入する欄を設ける。相互評価は、スピーチをよりよいものにするための励ましや助言となるものであり、相互評価を受けて、原稿を修正する時間を確保することを伝える。 ◆◇作品の解釈を踏まえ、自己の在り方生き方に関連付けて深めた考えを記述できているか。（スピーチ原稿の記述の分析 B(1) オ） ☆生徒の発表について、教師からコメントし価値付けをする。 ○初読感想文とスピーチを比較し、自分の解釈の変容を振り返らせる。 ◇自分の考えの変容や他者からの学びについての気付きがあるか。

※ 評価規準については、キャリア教育の事例として必要な事項のみを記載している。

5 本実践のポイント

自分なりのメッセージ性をつかみ整理することで、自分事として考えをもつこと、そして、学んだことがどう将来につながるかを考えることが大切である。また、考えを伝え合うことで自他の理解が深まり共感的人間関係が育まれる。そのため、このような言語活動を充実させることは、他教科、総合的な探究の時間や特別活動における学びを一層充実させることにつながる。

高等学校 地理歴史科

1 地理歴史科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

地理歴史科の学習では、社会的な見方・考え方を働かせ、現在の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指している。

具体的には、現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。そして、地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。また、地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

これらの資質・能力を育む地理歴史科の学習は、社会的事象を取り扱うことから、学びと社会とのつながりを意識するという点においても高等学校におけるキャリア教育の重要な役割を担っている。

高等学校学習指導要領(平成30年告示) 《抜粋》

第2章 第2節 地理歴史

第1款 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

目標の中にある「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」であると考えられている。単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、この「社会的な見方・考え方」を働かせ、社会的事象に関わる課題を追究したり解決したりする活動を他者と協働的に行うことは、人との関わりはもとより、社会の中での自分の果たすべき役割を考える機会ともなる。

2 地理歴史科の学習内容とキャリア教育の考え方 ―基礎的・汎用的能力を視点に一

地理歴史科の学習では、生徒は、例えば我が国と世界との地理的・歴史的関係に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて主題を設定する。次に、そこで見られる課題について情報を収集し、その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら課題の解決に取り組む。そして、明らかになった考えや意見などをまとめ、表現し、そこからまた新たな課題を見だし、その課題の解決に取り組むといった学習活動を発展的に繰り返していく。このプロセスの積み重ねにより、キャリア教育における基礎的・汎用的な能力が身に付くと考えられる。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関わる学習内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
地理領域	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を追究したり解決したりする活動の中で、自分の考えを論理的に説明すること。また、考察、構想したことを効果的に説明したり論述したりすること。さらに、他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、考察、構想したことを再構成しながら議論すること。 ・博物館や公文書館、その他の資料館などを調査・見学し、(地域の人々と交流することを通して、) 社会との関わりを意識すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる諸事象について、課題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けること。 ・世界各地で見られる地球環境問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な町づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察し、構想し、表現すること。
歴史領域		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(年表や地図、文献などの) 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けること。 ・諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して、(持続可能な社会の実現を視野に入れて設定した) 現代の日本の課題や地球世界の課題の形成に関わる歴史に関する主題について多面的・多角的に考察し、構想し、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現すること。

実践例（歴史総合）単元名「近代化への問い」

1（歴史総合）この単元のねらい

- 諸資料を活用して、情報を適切かつ効果的に読み取ったりまとめたりすることができる。
- 近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現することができる。

2 本実践とキャリア教育の関係

本実践では、大項目「B近代化と私たち」における「(1)近代化への問い」を事例とし、近代化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料から、情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、生徒が興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを見いだす学習活動を行う。

この学習活動は、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力のうち、主として次の二つの能力の育成につながるものと考えられる。第一に、資料から情報を読み取ってまとめる活動では、情報を主体的に選択し活用する力といった「課題対応能力」の育成が期待できる。第二に、例えば、労働・家族や教育などの資料を取り上げ、人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化したことに関わって抱いた興味・関心や疑問などを見だし、自分自身の問いを表現する学習活動を行うことで、学ぶことや働くことの意義や役割についての理解につながり、「キャリアプランニング能力」の育成にも資するものである。

3 全体構想（本実践の学習活動）

「A 歴史の扉」
(1) 歴史と私たち
(2) 歴史の特質と資料



「B 近代化と私たち」	主な学習活動 ○教科の学習活動, ☆キャリア教育の視点	時数
(1) 近代化への問い	<p>○ 中学校までの学習及び大項目A「歴史の扉」の学習を踏まえ、諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化したことに関して抱いた興味・関心や疑問などを基に、追究したいことを見いだして、自分自身の問いを表現する。</p> <p>☆ 諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする活動を通して、情報を主体的に選択し活用する力を身に付ける。</p> <p>☆ 教育や労働・家族などの資料を活用して考察することで、学ぶことや働くことの意義や役割についての理解を深める。</p> <p>☆ 問いを表現することによって、学習に対する関心を高め、自身との関わりを踏まえて、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>	2

4 本実践の展開

〈本実践のねらい〉

- ・労働・家族や教育などに関する資料を基に、近代化に伴う生活や社会の変化についての情報を読み取ったりまとめたりする。
- ・労働・家族や教育などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容についての自分自身の問いを表現するとともに、これからの学習の見通しを立てる。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
第1時	<p>【学習課題】近代初期の人々の生活や社会はどのようなものだったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代初期の日本や諸外国の労働・家族に関する資料を基に、産業革命がもたらした労働の近代化による生活や社会の変化について考える。 (個人活動のあと、考察した内容をグループで共有) ・近代初期の日本や諸外国の教育に関する資料を基に、近代化による生活や社会の変化について考える。 (個人活動のあと、考察した内容をグループで共有) ・近代化によって人々の生活や社会がどのように変化したかについて、現代の生活や社会とも比較しながら、資料から読み取ったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が歴史的な見方・考え方を働かせて資料から情報を読み取ることができるような資料の提示を工夫する。 ☆グループでの共有では、他者の考えを理解するため相手の意見をしっかりと聴き、自分の考えを正確に相手に伝えようとする。 ◆◇時系列に関わる視点（時期・年代など）、諸事象の推移に関わる視点（展開、変化、継続など）、諸事象の比較に関わる視点（類似、差異など）、事象相互のつながりに関わる視点（背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用など）、現在とのつながりなどに着目して、資料から情報を読み取ったり、まとめたりしている。
第2時	<p>【学習課題】近代化に伴う生活や社会の変容について、これからの学習で自分が考えてみたい問いを表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に資料から読み取りまとめた内容について、現代の生活や社会との差異にも着目しながら、グループ内で意見交換を行う。 ・グループ内で行われた意見交換の内容について、グループ代表が発表し、クラス全体で共有する。 ・これまでの学習の中で、自分自身が興味・関心をもったことや疑問に思ったこと、追究したいことなどを整理する。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について、これからの学習で自分が追究していきたいことを問いとして表現する。 ・これから学習を進めていく上での注意点について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○働くことや学ぶことについての当時と今の違いや共通点についても意識させる。 ◇働くことや学ぶことの意義や役割についての理解を深めている。 ☆他者の考えを理解するため相手の意見をしっかりと聴き、自分の考えを正確に相手に伝えようとする。 ○整理がうまく進まない生徒には個別に支援を行う。 ◆これまでの学習を踏まえ、大項目B「近代化と私たち」で追究したいことを、問いとして表現している。 ◆◇近代化の歴史に関わる諸事象について、表現した問いに対する見通しをもって学習に取り組もうとしている。

5 本実践のポイント

- 資料を読み取りまとめる活動
資料を適切かつ効果的に読み取りまとめる活動を通して育成される、諸資料から必要な情報を主体的に選択し、活用する力は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である「課題対応能力」のなかでも最も重要な要素の一つである。
- 現代の生活や社会と比較しながら、当時の生活や社会の変容を考察する活動
近代や現代の生活や社会を「働く」ことの意義や役割といった視点で考えることや、当時の生活や社会と現代の生活や社会を比較したり、そこから自分自身の問いを表現し、学習の見通しを立てたりすることは、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である「キャリアプランニング能力」を育成する第一歩である。

高等学校 公民科

1 公民科の学習を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

公民科の学習では、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指している。

具体的には、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようとする。そして、現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。また、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

これらの資質・能力を育む公民科の学習は、高等学校におけるキャリア教育の根幹ともいえる。

高等学校学習指導要領(平成30年告示) 《抜粋》

第2章 第3節 公民

第1款 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

高等学校学習指導要領(平成30年告示)では、我が国が厳しい挑戦の時代を迎える中で、これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を効果的に育むための中核を担う必修科目「公共」が、公民科に新たに設置された。

この「公共」は、現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成することなどについて考察する科目であり、家庭科、情報科、総合的な探究の時間や特別活動などとの関連を図るよう配慮する必要があることに加え、キャリア教育の充実の観点からも、中核的機能を担うことが求められることに留意が必要である。

高等学校学習指導要領(平成30年告示)《抜粋》

第2章 第3節 公民第2款 各科目 第1 公共

3 内容の取扱い

(3)イ この科目においては、科目目標の実現を見通した上で、キャリア教育の充実の観点から、特別活動などと連携し、自立した主体として社会に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められることに留意すること。

2 公民科の学習内容とキャリア教育の考え方 —基礎的・汎用的能力を視点に—

キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力は、公民科の学習を通して育成していくことができる。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関わる学習内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
公共	<ul style="list-style-type: none"> 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解すること。 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて、多面的・多角的に考察し、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解すること。 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けること。 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けること。 法、政治及び経済などに関わる事項について、各側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れて、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解すること。 現代社会の特質や社会生活の変化との関わりの中で職業生活を捉え、望ましい勤労観・職業観や勤労を尊ぶ精神を身に付けるとともに、自己の個性を發揮しながら、新たな価値を創造しようとする精神を大切に、自らの幸福の実現と人生の充実という観点から、職業選択の意義について理解すること。
倫理	<ul style="list-style-type: none"> 様々な他者との協働、共生に向けて、福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的諸課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して、自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解すること。
政治・経済	<ul style="list-style-type: none"> 政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察し、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 就業形態が多様化し労働市場が大きく変化している現状等を踏まえ、それぞれの事情に応じた多様な働き方・生き方を選択できる社会の在り方について、年齢で区分せずに能力や意思があれば働き続けられる雇用環境の整備、さらに仕事と生活の調和の観点などから探究すること。

実践例（公共） 単元名「公共の扉をひらこう」

1（公共）この単元のねらい

公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性、幸福、正義、公正などに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求する活動や課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

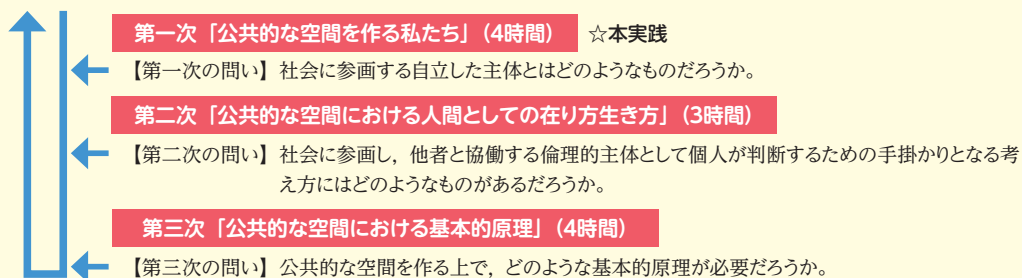
- 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。
- 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。
- 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解する。
- 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。
- 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解すること。
- 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解する。
- 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る。
- 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。
- 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。
- 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解する。
- 公共的な空間における基本的原理について、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。
- よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

2 本実践とキャリア教育

本実践は、大項目A「公共の扉」を内容のまとまりとした単元のうち、以下に示す単元構想の「第一次」である。本実践（「公共」の大項目Aの(1)）の国家や社会など公共的な空間を作る主体となることに関する問いを設け、それらを追究したり解決したりする学習は、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力のうち、主として次の二つの能力の育成に資するものである。第一に、「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成する力である「キャリアプランニング能力」である。第二に、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることや、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である「人間関係形成・社会形成能力」である。

3 単元構想

【単元を貫く問い】 公共的な空間をどのように作っていけばよいのだろうか。



4 本実践の展開

≪本実践のねらい≫

- (1) 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。
- (2) 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。
- (3) 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解する。
- (4) 社会に参加する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
第1・2時	<p>・【単元を貫く問い】を踏まえた単元の構造について理解する。</p> <p>【単元を貫く問い】 公共的な空間をどのように作っていけばよいのだろうか。 【第一次の問い】 社会に参加する自立した主体とはどのようなものだろうか。</p> <p>・【単元を貫く問い】に対する答えを予想しながら、課題解決への見通しを立てる。</p> <p>【第1・2時の問い】 これからの社会の中でどのような人生を歩んでいきたいか。</p> <p>・自分自身の人生を幸福度という尺度により1本の曲線で表現する「ライフラインチャート」を用いて、各自のこれまでの人生を振り返る。</p> <p>・各自の「ライフラインチャート」から、自らを成長させた出来事について考察する。</p> <p>・白書や新聞等の諸資料を参考に、私たちが生きるこれからの社会はどのようなものか、また、その社会の中でどのような人生を歩んでいきたいかについて考える。</p> <p>・各自の考えた内容をグループで共有する。 ・本時の振り返りを行う。</p>	<p>○ 青年期における発達の様相について触れる。 ○ 「ライフラインチャート」から、青年期の発達の様相に該当するところや、自らを成長させた出来事について考察するよう促す。 ○ 先哲が考えた「生き方」について、原典の口語訳等を紹介する。 ◇ 自ら主体的に判断してキャリアを形成しようとしている。</p> <p>☆ 多様な他者の考えや立場を理解する。 ◆◇ ねらい(1)(3)が達成できているか。 (ワークシート・振り返りの記述、行動観察)</p>
第3時	<p>【第3時の問い】 私たちは何のために働くのか。</p> <p>・中学時代の職場体験活動での気づきや身近な大人へのインタビュー、白書や新聞等の諸資料をもとに、「働くことの意義」について考える。</p> <p>・各自の考えた内容をグループで共有するとともに、グループ内で出された意見を踏まえ、【第3時の問い】について議論する。</p> <p>・本時の振り返りを行う。</p>	<p>○ 「働くこと」が社会参画の一つの在り方であることに気付かせる。 ☆ 働くことの意義や役割を理解する。 ☆ 多様な他者の考えや立場を理解する。 ○ 先哲による「働くこと」の考え方について紹介する。</p> <p>◆◇ ねらい(4)が達成できているか。 (ワークシート・振り返りの記述、行動観察)</p>
第4時	<p>【第4時の問い】 (他の生物やAIと比較して,) 人間にしかできないことは何か。</p> <p>・哲学対話の手法を用いて、【第4時の問い】についてグループで話し合う。</p> <p>・各グループでの話し合いの内容を全体で共有するとともに、新たな気づき等をまとめる。</p> <p>・話し合いでの気づきや教員のまとめを聞くことにより、伝統や文化、宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていることについて理解する。</p> <p>【第一次の問い】 社会に参加する自立した主体とはどのようなものだろうか。</p> <p>・これまでの学習を踏まえ、【第一次の問い】に対する答えを各自でまとめる。 ・本時の振り返りを行う。</p>	<p>○ 事前に「他者の発言に対して否定的な態度を取らない」などの哲学対話のルールを確認する。 ☆ 自分の考えを正確に相手に伝えようとする。 ○ 各人の個性があること、それぞれの尊厳をもつかけがえのない人格であることに気付かせる。 ☆ 多様な他者の考えや立場を理解する。 ○ 先哲による人間の定義についても紹介する。</p> <p>◆◇ ねらい(2)(3)が達成できているか。 (ワークシート・振り返りの記述、行動観察)</p>

5 本実践のポイント

本実践のポイントは、中学校での職場体験活動時の振り返りや身近な大人へのインタビューをもとに、人生における働くことの意味や働くことと社会の形成との関連性を多面的・多角的に考察することである。このような学習活動を通して自身の将来展望を描くことは、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成する力である「キャリアプランニング能力」や、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である「人間関係形成・社会形成能力」の育成に資するものと考えられる。

高等学校 数学科

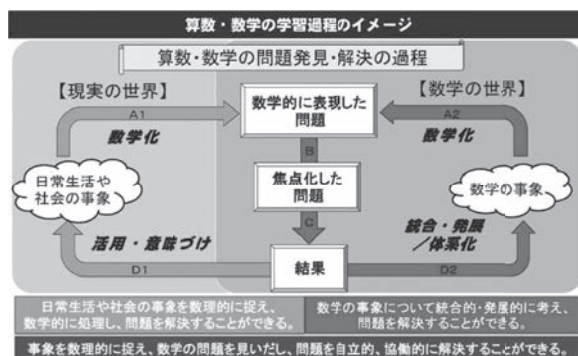
1 数学科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

高等学校学習指導要領(平成30年告示)では、数学科の目標を次のように定めている。

高等学校学習指導要領(平成30年告示) 《抜粋》

第2章 各学科に共通する各教科 第4節 数学 第1款 目標
 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(以下略)

高等学校学習指導要領解説数学編理数編では、目標に掲げられている「数学的活動」を「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること」とより具体的に表現している。また、指導計画を立てる際には、「算数・数学の学習過程のイメージ(図1)」を踏まえることとしている。



算数・数学の学習過程のイメージ(図1)
 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説[数学編]より

数学的な見方・考え方を働かせ、図1のような学習過程を繰り返すことによって、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成することができる。特に、「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せる」ようになることは、キャリア教育にとって極めて重要な課題である。そのためには、図1の学習過程の両側を繰り返すことによって、生徒が数学を体系的に理解し、「今の学びがその先の社会生活までつながっている」ということを実感し、学習意欲の向上へとつながるように、教師は意図的な指導計画を立てる必要がある。

高等学校学習指導要領において、数学I「データの分析」では「仮説検定の考え方」、数学B「統計的な推測」では、「区間推定」や「仮説検定」が新設された。これらの単元については、地理歴史科、公民科や理科、保健体育科、家庭科、情報科、理数科などの各教科・科目との関連が深く、職業や日常生活に関連した資料を扱い、現代社会の課題などについて考えをまとめ、発表するなど、キャリア教育の視点で学習を進めることも期待される。

2 数学科の指導内容とキャリア教育の考え方 ―基礎的・汎用的能力を視点に―

数学科の指導において数学的活動を意識することは、教科の学びをキャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成につなげる上でも重要である。高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説【数学編】では、第3章第2節4で、「数学的活動の取組に関わる配慮事項」について次のように記載されている。

高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編理数編 《抜粋》

第1部 数学編 第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

第2節 内容の取扱いに当たっての配慮事項 4 数学的活動の取組に関わる配慮事項

3 各科目の指導に当たっては、数学を学習する意義などを実感できるよう工夫するとともに、次のような数学的活動に取り組むものとする。

- (1)日常の事象や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理して問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って考察する活動。
- (2)数学の事象から自ら問題を見だし解決して、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する活動。
- (3)自らの考えを数学的に表現して説明したり、議論したりする活動。

上記のアンダーラインを引いた部分は生徒一人一人が社会的・職業的に自立するために必要となる能力である基礎的・汎用的能力の「課題対応能力」と「人間関係形成・社会形成能力」の育成につながる活動であると考えられる。

また、指導内容については、単元ごとに学ぶ意義に触れるとともに、数学を日々の生活と結び付けて理解し有用性を実感する機会として、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」及び「数学Ⅲ」における「課題学習」を活用したり、従前の学習指導要領において「数学活用」で扱われていた内容が「数学A」、「数学B」及び「数学C」の性格を踏まえて各科目に移行されたため、その内容を活用したりするなどの工夫も求められる。

以下は、「数学的活動」の取組を意識しながら、教科と基礎的・汎用的能力の関係を「学習活動」と「具体的に身に付けたい力」で整理したものである。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> 自らの考えを数学的に表現して説明したり、議論したりする活動 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程において、粘り強く思考する活動 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する活動 数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的、体系的に考察する活動 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識できるよう、数学を学ぶ過程で適切かつ能率的に物事を処理できるようになったり、事象を簡潔・明瞭に表現して的確に捉えることができるようになったりする成長の過程を適宜振り返る場面を設ける活動
具体的に身に付けたい力	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション・スキル 多角的なものごとを見る力や考える力 	<ul style="list-style-type: none"> 「やればできる」と前向きに考えて行動できる力 	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力 課題解決能力 本質を理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> 数学を学ぶ意義や役割を理解し、実生活で活用しようとする力

実践例（数学I） 単元名「データの分析」【第1学年】

1（数学I）この単元のねらい

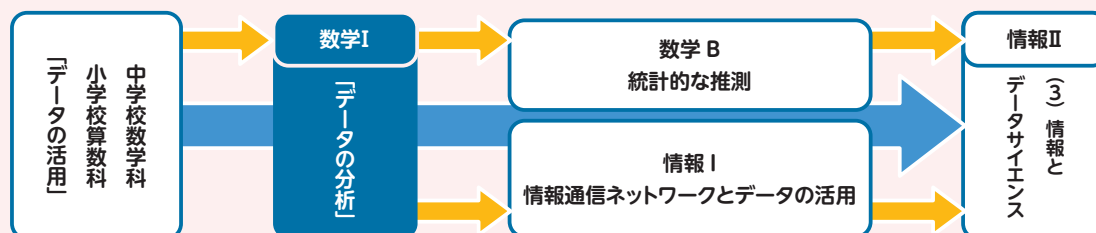
- (1) データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- (3) 事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりする態度を養う。

2 本実践とキャリア教育

本実践では、「3 全体構想」のように、横の学びの「つながり」、縦の学びの「見通し」と「振り返り」を大事にすることができ、学習への意欲の向上につながる。特に、統計的探究プロセスは小学校、中学校の「データの活用」領域において意識されているため、高等学校においても、可能な範囲で具体的な問題の解決を通して、このような統計的探究プロセスを経験する場面を設定するとよい。学習過程のつながりを大切にすることによって、社会や日常生活における問題解決にも活かす資質・能力が培われることになる。

特に、統計的探究プロセスを意識しながら適切な計画を立てて課題を分析し、判断し、解決することができる「課題対応能力」と、グループ学習等で自分の考えを他者に正しく伝えとともに、他者の考えを理解しながら議論することができる「人間関係形成・社会形成能力」を育成する。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



日常生活・将来の実社会とのかかわり・統計的探究プロセスの習得→学習意欲の向上、基礎的・汎用的能力の育成

主な学習活動	時数
1 データの散らばりの大きさ ・データの分析とグラフ ・分散と標準偏差 ・分散、標準偏差の性質	5
2 データの相関	3
3 データの分析の応用	3
4 仮説検定の考え方	2
5 課題学習、まとめと振り返り(本時)	1

<特別活動（ホームルーム活動）>
「一人一人のキャリア形成と自己実現」

<総合的な探究の時間>
「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」

4 本実践（本時）の展開（データの分析 14 / 14 時間目）

<本時のねらい>

- ・分散，標準偏差，散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解している。
- ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し，適切な統計量やグラフ，手法などを選択して分析を行い，データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）																											
事前学習	<p>事前に出された課題について，14/14時間目までにアンケートフォーム等でデータを収集しておく。（個人）</p> <p>課題 スマートフォン等の携帯端末の利用の影響について，以下のデータを収集し，分析して，根拠を明確にしながら得られた結論を発表しよう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>性別</th> <th>使用時間（分）</th> <th>アプリの数（個）</th> <th>読書（分）</th> <th>家庭学習（分）</th> <th>睡眠時間（分）</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>……</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※空いている枠は，自分で収集したいデータ項目を入れる。 （例えば，「テレビ視聴時間」や「リビングにいる時間」等が考えられる）</p>	No.	性別	使用時間（分）	アプリの数（個）	読書（分）	家庭学習（分）	睡眠時間（分）			1									……									<p>○単元の最初に，以下の課題を提示し，指定の日までにデータを収集するよう指示する。 ☆実社会に関連する題材を提示する。</p>
No.	性別	使用時間（分）	アプリの数（個）	読書（分）	家庭学習（分）	睡眠時間（分）																							
1																													
……																													
導入	<p>1 スマートフォン等の携帯端末の利用の影響について，現在の自分の予想を直感でアンケートフォームに入力する。（個人）</p>	<p>○アンケートフォーム入力の結果を全体でICTを用いて共有する。 ☆日常生活と数学を関連付ける。</p>																											
展開	<p>2 空いている枠にどのような項目を入れたのかを共有する。（グループ）</p> <p>3 データの結果の分析方法を計画し，分析してまとめる。（個人）</p> <p>4 根拠を明確にしながら得られた結論を発表し，質疑応答（過度に一般化していないか，アンケート対象者，実施時期等）を行う。（グループ）</p>	<p>○目的を明確にして，追加項目内容を共有するように伝える。</p> <p>◆分散，標準偏差，散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解している。</p> <p>◆◇目的に応じて複数の種類のデータを収集し，適切な統計量やグラフ，手法などを選択して分析を行い，データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。</p> <p>◇グループ発表で自分の考えを他者に正しく伝えるとともに，他者の考えを理解しながら議論することができる。</p>																											
終末	<p>5 日常生活において，どのようなことを意識してデータを分析するとよいかをアンケートフォームに入力する。</p>	<p>○ICTを用いて，全体共有する。 ○☆学びを汎用化し，今までの学びと社会をつなぐ。</p>																											

5 本実践のポイント

- ICTを活用して，生徒の考えを視覚化するとよい。生徒の当事者意識や興味・関心が高まるため，主体的に学習に取り組む一つのきっかけとなる。
- 単元ごとの振り返りをポートフォリオとして保管しておくのもよい。「キャリア・パスポート」の基礎資料として活用することができる。身に付けた資質・能力や数学を学ぶ意義，困難を乗り越えた状況などを記載しておき，ホームルーム活動などで他教科等とつなぐことができる。

高等学校 理科

1 理科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2019)において、「理科を勉強すると、日常生活に役立つ」「理科を使うことが含まれる職業につきたい」と回答した日本の中学生の割合は、前回の調査より増加している様子が見られるが、依然、国際平均より下回っていることが明らかになった。そのため、生徒自身が自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的に探究する学習を充実させていくことが重要である。さらに、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めることで、日常生活や社会の中で生じる様々な課題に対応する力を育成していく必要がある。これらは、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成と深い関わりがある。

高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 理科編理数編 《抜粋》

第1部 理科編 第1章 総説 第2節 理科改訂の趣旨及び要点
 2 理科改訂の要点
 (1) 改訂に当たっての基本的な考え方
 理科で育成を目指す資質・能力を育成する観点から、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象について科学的に探究する学習を充実した。また、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視した。

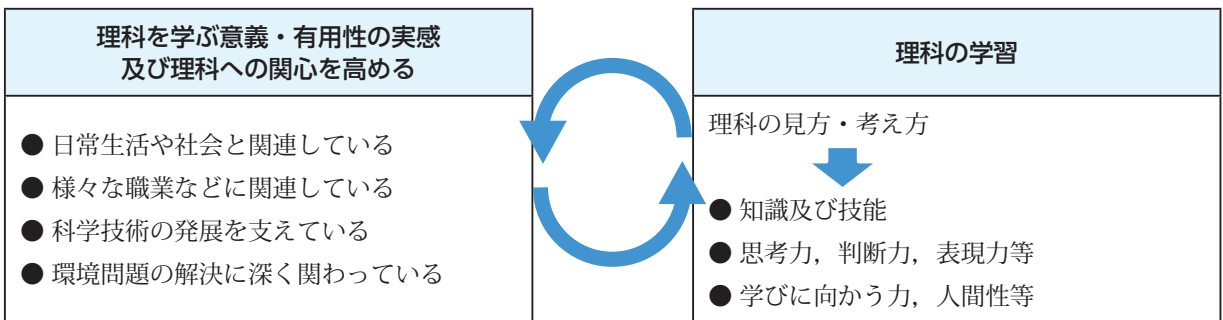
日常生活や社会

- Society5.0時代の到来が、社会や生活を大きく変えていく状況が生じつつある。
- 情報化やグローバル化が進展する社会においては、多様な事象が複雑さを増し、変化の先行きを見通すことが一層難しくなっている。
- 選挙権年齢や成年年齢の引き下げなど、高校生にとって政治や社会が一層身近なものとなっている。

生徒一人一人の社会的・職業的自立



自然の事物・現象を科学的に探究するための資質・能力の育成



2 理科の指導内容とキャリア教育の考え方 —基礎的・汎用的能力を視点に—

理科は、自然の事物・現象を学習の対象とする教科である。自然の事物・現象に関わることは、生徒が主体的に問題を見いだすために不可欠であり、学習意欲を喚起する点からも大切なことである。また、理科で学ぶ内容は日常生活や社会と深く関連しており、理科の学習を通して育成する資質・能力は、変化の激しい社会の中で生涯にわたって主体的、創造的に生きていくために大切である。理科の指導を進めるに当たっては、学習指導要領を踏まえつつ、生徒一人一人が社会的・職業的に自立するために必要となる能力である基礎的・汎用的能力の育成を視点として指導の改善・充実を図り、系統的・計画的に学習を進めることが大切である。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> ・他者と協力・協働して、観察・実験を行おうとしている。 ・実験レポートや観察記録の作成や発表により、多様な考えを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の役割を理解し、主体的に観察・実験に取り組もうとしている。 ・持続可能な社会をつくっていくため、自分が「できること」について考え、主体的に学ぼうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の中で得た気付きから疑問を形成し、課題として設定することができる。 ・課題に対して、探究の過程を通じて課題を解決したり、新たな課題を発見したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科で学んだことや科学的に探究する力が様々な職業や日常生活等と関連していることを理解し、自らの生き方に生かそうとしている。 ・身の回りの事象から地球規模の環境までを視野に入れて、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断しようとしている。

科学技術の進歩によって、私たちは利便性、安全性を手に入れ、日常生活や社会をより豊かなものに発展させてきた。また、ただ利便性や快適性を求めるだけではなく、次世代への負の遺産とならないように、持続可能な社会をつくっていくことの重要性が高まっている。

理科の学習では、課題の把握(発見)、課題の探究(追究)、課題の解決という探究の過程を通じた学習活動を行い、それぞれの過程において、資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ることが必要である。新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す現代社会では、新しい知識や情報の真偽を科学的に判断することや、筋道を立てて理解することが必要な事態がしばしば起こる。生涯にわたって、主体的、創造的に生きていく上で、探究する力や態度を身に付けることは、必要不可欠である。

人間が自然と調和しながら持続可能な社会をつくっていく意識をもち、安全で健康な生活を過ごすためにも、理科を学ぶ意義は大きく、一人一人のキャリア発達を考える際、理科で学ぶ内容は非常に大切である。

実践例1 (科学と人間生活) 単元名「物質の科学」

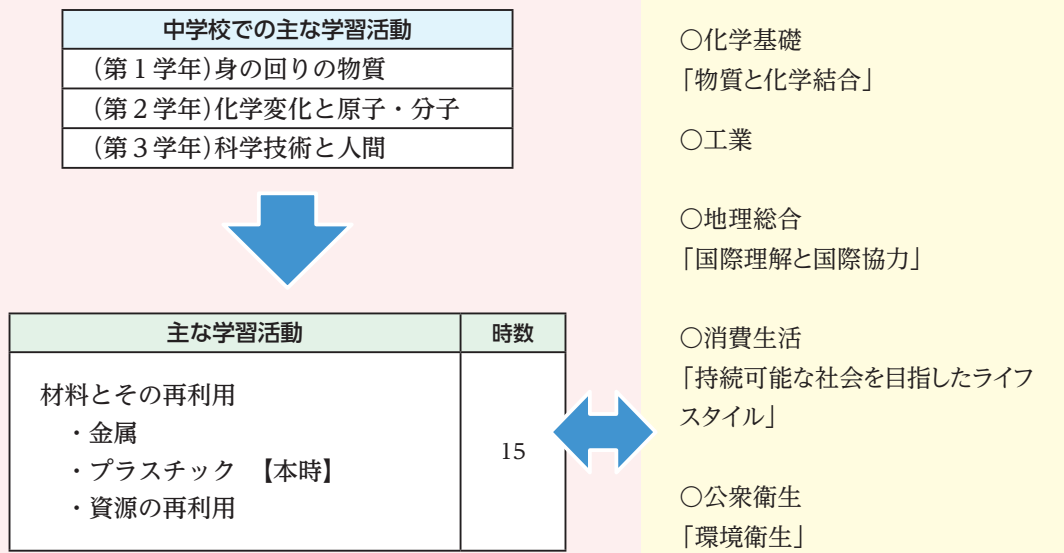
1 (科学と人間生活) この単元のねらい

- 物質の科学と人間生活との関わりについて認識を深めるとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- 物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現すること。
- 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めること。

2 本実践とキャリア教育

現在、環境問題やエネルギー問題といった地球規模での課題が増す中、人間が自然と調和しながら持続可能な社会を構築することが強く求められている。そのためには、身の回りの事物・現象から地球規模の環境までを視野に入れて、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断できる力を身に付ける必要がある。本実践では、中学校での学びを生かし、探究の過程を通じて課題を解決することで、主に「課題対応能力」の育成を促す。さらに、今後の学習や日常生活及び社会に生かそうとする「キャリアプランニング能力」も育成したい。

3 全体構想 (本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動)



更なる充実のために 一他教科における学習と関連付けた指導

本単元を通したキャリア教育を充実させるために、生徒や学校、地域の実態などに応じて、総合的な探究の時間や理数探究等を活用し、国際連合が定めた持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals ; SDGs) などを参考に、生徒自身が様々な地球的課題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となることに発展させて指導することが考えられる。

4 本実践（本時）の展開（第9・10/15時間）

《本時のねらい》

- ・観察・実験を行い，結果を分析して解釈し，考察したことを説明しようとする。
- ・探究の各過程において粘り強く課題の解決に向かう取組ができたか振り返り，今後の学習や日常生活及び社会に生かそうとする。

		学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
第9時	導入	1 前時までの内容を確認する。	☆プラスチックについて，中学校で学んだことや他教科の既習事項をつなげる。
	展開	2 課題を確認する。 課題：未知のプラスチック片A～E（ポリエチレン，ポリスチレン，ポリ塩化ビニル，ポリエチレンテレフタレート，フェノール樹脂等）は，それぞれ何だろうか。	
第10時		3 仮説を設定し，実験計画を立案する。	☆ 課題対応能力の育成につなげるため，課題解決に向けて見通しをもって実験を行うことができるようにする。
	4 A～Eを見分ける実験を行う。 ・想定される実験：燃焼した様子（融け方，燃え方）や密度，バйлシユタイン試験（塩素の含有試験）等	◆ プラスチックについて科学的に探究し，課題解決しようとしている。 ○ 1時間の区切りは学級の実態やグループの進捗状況によって変更する。	
	5 実験結果や他のグループの結果も参考にして，考察する。	○ ICTを活用して実験の様子を撮影するなど，根拠のある考察ができるようにする。 ☆ 1人1台端末を活用して，発表の資料を作ってくるなど家庭学習との連携を図ることが考えられる。（資料やデータの活用）	
	6 各グループで考察したことを全体で共有する。	◆ 観察・実験を行い，結果を分析して解釈し，考察したことを説明している。	
終末	7 本時のまとめを行う。 ・科学的に根拠のあるまとめを行う。	○ 多面的・総合的に判断できる力を養うため，他者から学んだ事も含めるようにする。	
	8 本時を振り返る。	◇ 探究の各過程において粘り強く課題の解決に向かう取組ができたか振り返り，今後の学習や日常生活及び社会に生かそうとしている。	

5 本実践のポイント

中学校で学習している内容を生徒から引き出し，中学校の学びとつながっていることに気付くよう指導し，学習後に学びが深まっていることを認識させたい。この実践後には，資源の再利用で回収されたペットボトルについて取り扱うことなどが考えられる。

そのため，終末において自治体の環境センター等で働く人から話を聞く機会を設定できると，持続可能な社会の実現のために自分は何ができるのかということ，社会参画の視点で自分事として考える展開につなげることができる。その際，持続可能な社会の実現に向けた地球温暖化対策などに触れていくことも考えられる。

実践例2（地学基礎） 単元名「地球の環境」

1（地学基礎）この単元のねらい

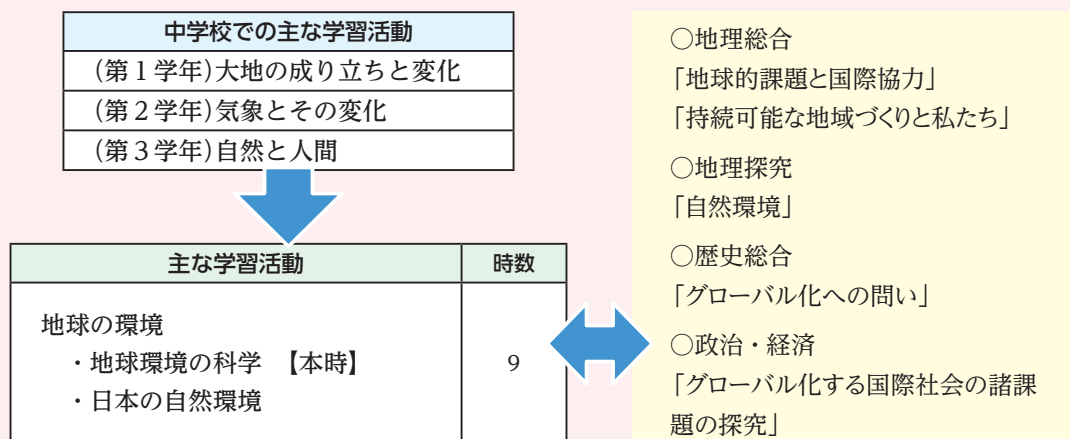
- 地球の環境について、地球環境の科学、日本の自然環境を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- 地球の環境について、観察・実験などを通して探究し、地球の環境について規則性や関係性を見いだして表現すること。
- 地球の環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養うこと。

2 本実践とキャリア教育

科学技術の発展により、現代社会では豊かで便利な生活を送ることができるようになってきている。その一方、地球環境の変動には、人間の諸活動による影響も加わっており、国際社会の協力を通じた視点での解決を考えていく必要性がある。

そこで、本実践では、中学校での学びを生かしながら、データに基づいて探究の過程を通じて、地球環境の変化を見いださせ、その仕組みを理解させるとともに、人間生活との関わりについて認識させる。これにより、主に「課題対応能力」の育成を促す。さらに、私たちの生活において理科を学習することの重要性や大切さに気付かせ、自分には何ができるか等について考えるようにすることに重点をおくことで、「自己理解・自己管理能力」や「キャリアプランニング能力」の育成を促すこともできる。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



更なる充実のために 一他教科における学習と関連付けた指導

本単元を通したキャリア教育を充実させるために、地理総合の内容である「地球的課題と国際協力」の学習との関連をもたせて取り扱うことが考えられる。また、生徒や学校、地域の実態などに応じて、総合的な探究の時間を活用し、国際連合が定めた持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals; SDGs）などを参考に、生徒自身が様々な地球的課題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となることに発展させて指導することが考えられる。

4 本実践（本時）の展開（第2・3時 / 9時間）

《本時のねらい》

- ・資料に基づいて、世界の年平均気温の変化や氷河、海水面積の変化などの特徴を見い出して、地球温暖化が人間生活に及ぼす影響を考察し、表現する。
- ・課題に対して、適切な計画を立てて、その課題を追究し、解決しようとする。

		学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
第2時	導入	1 今まで学んだことを生かして、地球環境が変化している現象にはどのようなものがあるか意見を出し合う。	○ グループごとに、意見を出し合う。 ☆ 中学校の学習など既習事項とつなげる。
	展開	2 課題を確認する。 課題：地球環境はどう変化してきているだろうか。 データを基に科学的な根拠に基づいて考察し、説明しよう。	
第3時	展開	3 地球環境が変化している現象から、自分が調べる現象を設定する。	☆「課題対応能力」の育成につなげるため、課題解決に向けて見通しをもつことができるようにする。 ○ 仮説の際に原因も考えるように促す。 ○ 1人1台端末を活用し、調べることが考えられるが、データの出典や信憑性等に気を付ける。 ◆資料に基づいて、世界の年平均気温の変化や氷河、海水面積の変化などの特徴を見い出して表現している。 ○ 1時間の区切りは学級の実態やグループの進捗状況によって変更する。
		4 仮説を立てる。 5 検証するためにどのような資料が必要か考え、調べる。 6 調べた資料から、科学的な根拠に基づいて地球がどう変化してきているか、その理由も含めて個人で考察する。	
	終末	7 個人で考察した内容について、グループや全体で共有する。 8 地球環境の変化が人間生活に及ぼす影響について考察する。	☆ 全体共有により、多様な考えを理解し合う。 ○ 自分で調べたことだけでなく、多面的に捉え、総合的に判断するようにする。
	終末	9 本時のまとめを行う。 10 本時を振り返る。 ・学んだことから、自分にこれから何ができるかを考える。	◆ 地球温暖化が人間生活に及ぼす影響を考察し、表現している。 ◇ 課題に対して、適切な計画を立てて、その課題を追究し、解決しようとしている。

5 本実践のポイント

科学館等が提供している環境教育教材等を活用して、地球規模の課題や社会の抱える問題を自分事として捉え、自ら発信して社会の一員としての自覚をもつことにつなげることも考えられる。また、地域の自然環境の変化との関わりや人間生活への影響を予想させる際に、環境省や各企業等のポータルサイトを利用し、持続可能な社会の実現に向けた地球温暖化対策など、人間生活がもたらす地球環境の変化への対応の状況について触れることが考えられる。

高等学校 外国語科

1 外国語科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。外国語科の学習では、実際のコミュニケーションにおいて活用される知識、技能を身に付け、それらを用いて、繰り返し思考・判断・表現することを通して、生徒の学びの過程全体の中で、「学びに向かう力、人間性等」が育成されることが重要である。

高等学校学習指導要領(平成30年告示) <抜粋>

第2章 各学科に共通する各教科 第8節 外国語 第1款 目標
 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

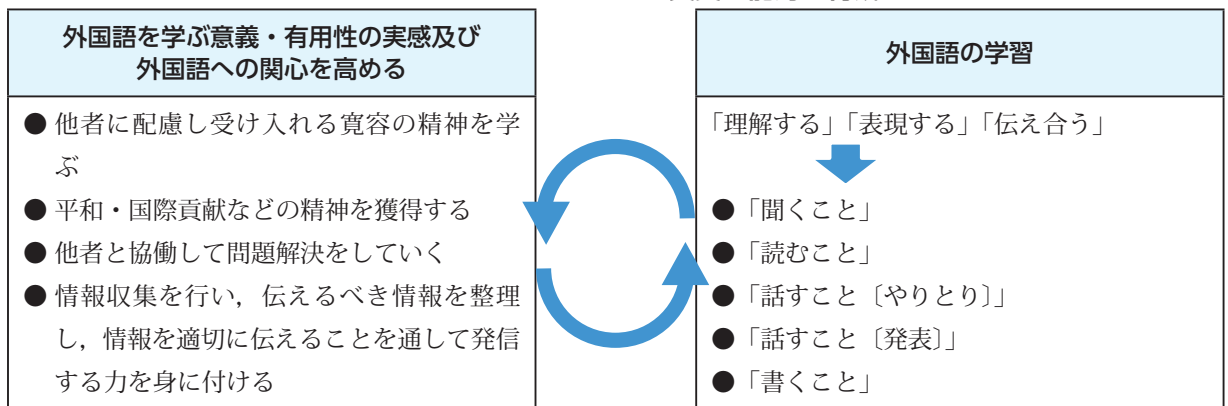
日常生活や社会

- 生産年齢人口の減少、グローバル化の進展等による社会構造や雇用環境が大きく変化しており、予測が困難な時代になっている。
- 持続可能な社会の担い手として、一人一人の多様性を原動力として質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値の創出が期待されている。
- 選挙権年齢や成年年齢の引き下げなど、高校生にとって政治や社会が一層身近なものとなっている。

生徒一人一人の社会的・職業的自立



**情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現したり、伝え合ったりする
コミュニケーションを図る資質・能力の育成**



2 外国語科の指導内容とキャリア教育の考え方 ―基礎的・汎用的能力を視点に―

外国語科においては、外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指している。グローバル化が進み、変化の激しい社会を生き抜くためには、母国語だけでなく、外国語で発信された情報を読み解く力や、外国語で自分自身の意見などを発信するコミュニケーション能力を育むことが必要不可欠である。あわせて、異なる文化背景による価値観の違いや多様性を理解し、相手を尊重しながら、予測不可能な局面を乗り切るために外国語による対話も重要である。

外国語科で育成を目指す、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」は、高等教育機関で学んだり、社会に出て働いたりする際に必要となるものである。また、外国語を通してその背景にある文化を学び、他者を理解するなどの教科の目標は、他者の個性を理解する力や他者に働きかける力の育成に直結するものであり、生徒のキャリアに深く関わるものであるといえる。

外国語科の指導は、外国語でのコミュニケーション能力を高めるとともに、生徒の社会的・職業的自立の基盤となる能力・態度の育成にもつながるものである。外国語科全般に想定される活動内容は基礎的・汎用的能力を育むことと結び付いており、キャリア教育においても重要な役割を果たすことが分かる。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化などを学び、多様性や個性を理解する。 ・外国語を用いて、他者に働きかけることができる。 ・相手に興味をもち、相手に配慮しながら、適切な表現や言葉を選び、対話を継続しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識・技能を活用して、外国語で自分自身について表現する。 ・外国語を通して学んだ事柄を活用して、自分自身の考えなどに照らし合わせて、文章を書いたり、やり取りしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を分析し外国語で情報を整理する。 ・外国語でのやり取りやディベートなどを通して、課題への理解を深めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会のグローバル化」を認識し、社会で使える外国語のコミュニケーション力を身に付けようと、計画的・主体的に学ぼうとする。 ・未知の外国語や事象に対峙しても、最後まで外国語で活動をやり通そうとする。

外国語で扱う「日常的な話題」や「社会的な話題」は、キャリア教育がもつ「学校生活と社会生活や職業生活を結び関連付け、将来の夢と学業を結び付ける」という意義との関連性が深い。また、外国語で発信された資料から、国際的な視点をもって資料から自己と社会をつなげる経験ができる。学習内容を「自分事」として捉えることで、学習そのものに意義を見だし、生徒がより主体的に外国語でコミュニケーションを図ることを促す。また、他者とのよりよい人間関係を構築する資質・能力の育成にもつながる。

実践例（英語コミュニケーションⅠ）単元名「School Rules」【1学年】

1（英語コミュニケーションⅠ）この単元のねらい

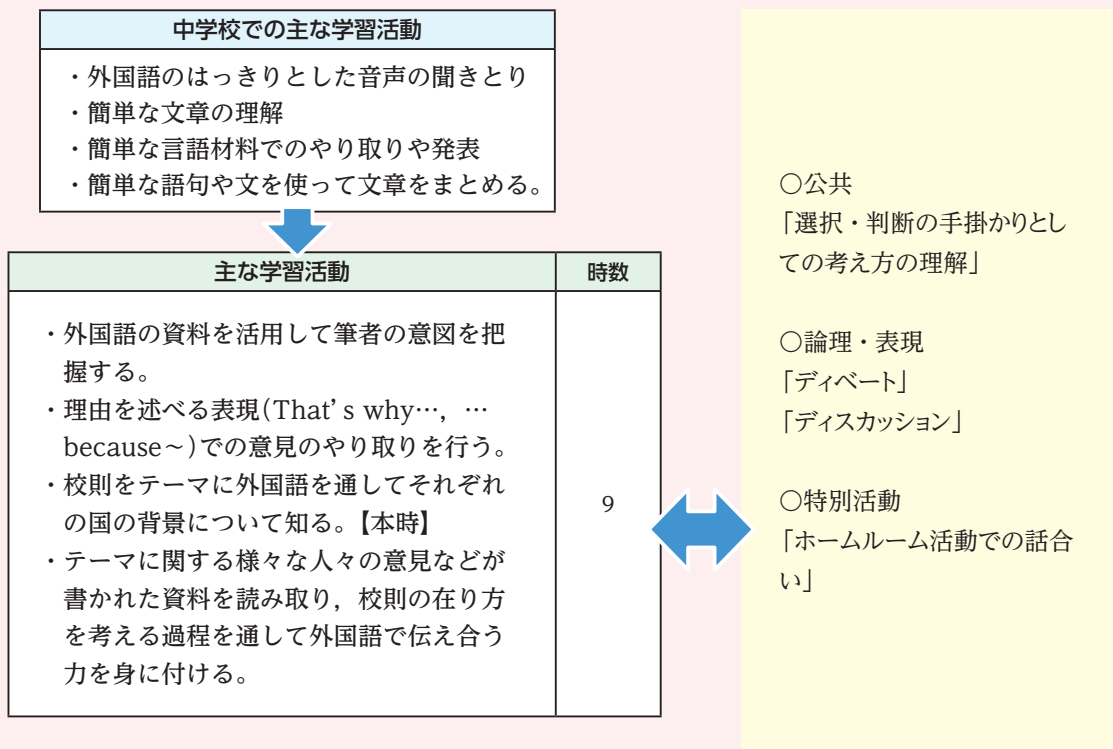
※この単元では日常的な話題として「校則について」をテーマとする。

- 他国の文化背景や自国の現状などの情報を読んだり聞いたりして、自分自身の考えを外国語でまとめることができる。
- ペアワークやパネルディスカッションなどの場面に応じて相手に配慮しながら、自分自身の考え等を適切に伝える表現を選び、外国語でやり取りすることができる。
- 相手の意図を把握し、相手の考えや意見に応じて、相手に配慮しながらその場で質問や自分自身の考えなどを伝え合おうとしている。

2 本実践とキャリア教育

グローバル化や少子高齢化の加速をはじめ、社会の枠組みが大きく変化する中で、多様な意見や文化背景、価値観に遭遇する機会が増えている。変化が激しく予測することが困難な状況だからこそ、多様な意見や価値観を知り受容しながら、新たな価値を創出し、多角的な視点で問題解決に協働して取り組む資質・能力が求められる。本実践では、中学校での学びを生かし、外国語を通して、校則という身近な話題にも様々な意見があることを学ぶ。多様性や価値観の違い等を理解して受け入れながら、自分自身の価値観等も形成し、情報や考え、気持ちを外国語で伝え合う過程を通して、「他者の個性を理解する力」「他者に働きかける力」「チームワーク」等を発揮し、外国語の運用能力と共に「人間関係形成・社会形成能力」を育成する。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



4 本実践例1（本時）の展開（第3・4／9時間）

《本時のねらい》

- ・「賛成」「反対」など学習内容を整理しながら理解している。
- ・「賛成」「反対」などの立場を明らかにし、根拠を述べてやり取りをすることができる。
- ・多様な価値観などに気が付き、自分自身の考えをさらに深めようとしている。

		学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
第3時	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・“for” or “against”：自校の校則についての自分自身の考えを示す活動（教室を2分割にし、for なら右側、against なら左側に移動する）。ルール：必ず自分自身でどちらに行くか決めて動く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移動する際のけがや転倒について注意喚起する。 ○ 生徒の実態に応じて、必要な表現などを提示し、活動が円滑に行えるよう配慮する。
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から、諸外国の校則についての賛成意見と反対意見を読み取り、日本との相違点について英語で整理する。 	
第4時	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり、諸外国の校則について話し合い、外国語で意見をまとめる。 ・ワールド・カフェ形式で、外国語でグループの意見を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 主体的に話し合いに参加し、自分自身の役割を果たそうとしている。
	終末	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で知った他のグループの意見で印象に残ったものを挙げ、その理由とともに外国語で感想を伝え合う。 ・本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 考え方の多様性、価値観の違いなどに気が付き、視野を広げている。 ◆ 他者からの学びを踏まえて英語で理由を示しながら感想や意見を述べている。

5 本実践のポイント

- 中学校とのつながりを意識する
中学校で学習した簡単な語句や知識を積極的に活用し、学習のつながりを意識する。
- 資料の意図を的確に把握する
外国語で提供される情報の意図を常に推測しながら読み取り、理解することに留意する。社会生活の中では、様々な場面や情報に遭遇することが見込まれ、それらに応じた外国語の運用能力を養うことにもつながる。
- 自己の在り方生き方との関連を実感する
外国語で意見を述べるという活動は、母国語と同様に自己と対話をする機会でもある。また、他者と対話を続けるために、相手に配慮して、よりよい人間関係を築きそれを維持する大切さを学ぶことから、ホームルーム活動との関連性も深い。

6 本実践例2（本時）の展開（第5・6／9時間）

《本時のねらい》

- ・既習の表現を活用しながらALTとやり取りを行おうとしている。
- ・ALTとのやり取りから外国語の背景にある文化を理解することができる。
- ・異なる文化背景をもつALTの意見や他者の意見を取り入れ、振り返りを行い自分自身との対話を深めることができる。

		学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
第5時	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとの挨拶ゲーム：（ルール）ALTの質問に英語で答え、その理由を必ず付ける。 ALT：“How are you today?” Student：“I'm good.” ALT：“Any news?” Student：“I got a new smartphone yesterday.” など 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校から慣れ親しんできた質問をALTがすることで、英語で答えやすい雰囲気をつくる。
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTから、母国の校則の説明（校則がない場合も含む）を聞く。 ・グループでALTの説明を外国語でまとめる。 ・前時の内容と比較しながら、ALTの説明に対して、賛成・反対両方の立場から、外国語でスライドを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態に応じて、日本語での支援などを適宜行い、ALTの意見や説明する内容を周知する。 ○スライド作成に当たってはBYODなどを活用する。 ☆他者の意見を受け入れ、自分自身の考え方や視点を理解する。
第6時		<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとグループの代表1名ずつがパネリストになり、外国語でパネルディスカッションを行う。 ・パネラーに外国語で質疑応答を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ALTや資料から、人によって多様な意見や考え方、また、似ている意見や考え方があることを理解する。
	終末	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTを交えてパネルディスカッションを行った感想を理由とともに考える。 ・ペアで本時の感想を外国語で伝え合う。 ・本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必ず感想に理由を交えることを徹底する。 “I enjoyed today's class because I could talk a lot with my classmates” . ◆外国語で、多様な意見や考え方を伝え合い理解している。

7 本実践のポイント

- 複数の話し手の意図を外国語で聞き取りメモを取る
他者の話を聞き取る場合は、必要に応じてメモを取る。外国語を聞き取る力を付けると共に、社会生活の中では、様々な話し手から情報を受け取り、対応することが見込まれるので、常に相手の意図を意識しながら話を聞く力を養うことにもつながる。
- 自己の在り方生き方との関連を実感する機会を設ける
異なる文化背景をもつALTや他者の意見に触れ、自己の在り方生き方を振り返る機会を設定する。
- 社会的な話題との結び付きにも留意する
教科書以外にも、英字新聞や外国語のニュースサイトなどの記事を扱うことで、学習内容を「自分事」と捉えて考えることにつなげ、外国語での情報収集力も身に付けられるようにする。

高等学校 商業科

1 商業科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

商業科では、実践的、体験的な学習活動を重視し、学校内の学習活動だけでなく、企業と連携した商品開発、地域での販売実習、地域の課題解決や地域活性化を目的とした取組などを行うなど、関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、社会や産業を支える人材を育成してきた。しかしながら、急速な科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術が変化するとともに高度化しているため、これらへの対応が課題となっている。また、商業科では、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、地域や産業界との連携の下、産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動をより一層充実させることが求められている。

このような社会の状況を踏まえ、高等学校学習指導要領(平成30年告示)には、専門教科「商業」の目標として、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成すること」が示され、その資質・能力について、次のとおり三つの柱に沿って整理されている。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	・ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	・職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

そこで、商業科では、高等学校学習指導要領(平成30年告示)に示された目標を踏まえ、ビジネスの様々な場面で役に立つ知識、技術などを身に付けるようにすること、ビジネスにおける課題を科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うこと、職業人に求められる倫理観などを育み、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を目指して主体的に学ぶ態度を養うことなど、産業界が求める資質・能力を育成する学習活動を一層充実させ、生徒のキャリア形成に資することが望まれる。さらに、商業科では、将来の職業を見通して、専門的な学習を続けることにつながる知識、技術などを身に付けることも重視しており、このことは、生涯にわたり学び続けることや、対応するべき課題が生じた場合に解決に向けて粘り強く取り組むことなど、キャリア教育と深く結び付いている。

このように、商業科での学習活動は、社会や職業への理解の深化、社会参画への理解、学校から職業への準備、自己の可能性の追求などの役割を果たしており、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要となる基盤となる能力や態度を育てることを通じてキャリア発達を促す」というキャリア教育の目標と密接につながっている。

第5章 高等学校におけるキャリア教育の実践

2 商業科の指導内容とキャリア教育の考え方 ―基礎的・汎用的能力を視点に―

商業科の学習を通して社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である基礎的・汎用的能力を育成するためには、商業科の学習活動の様々な場면을キャリア教育の視点で捉え、経済社会や実務に目を向けさせる指導、具体的な事例を取り上げて生徒に考察や討論を行わせる指導、ビジネスの場面を想定した指導を充実させるなど、指導の内容や方法を工夫するとともに、生徒の発達の段階に応じて計画的、体系的に展開することが大切である。

原則履修科目である「ビジネス基礎」を例に挙げると次のとおりである。

「ビジネス基礎」では、ビジネスの様々な場面で役に立つビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けるようにすること、ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うこと、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養うことなどをねらいとしている。

次の表は、「ビジネス基礎」におけるキャリア発達に関わる基礎的・汎用的能力の育成に関連する指導内容の一部をまとめたものである。

「ビジネス基礎」における基礎的・汎用的能力の育成に関連する指導内容の一部

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う上での望ましい人間関係を構築することの意義や必要性及び倫理観、責任感、協調性などの豊かな人間性、自己責任や社会貢献の意識などビジネスに対する望ましい心構えや考え方について理解する学習活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの実務に対応して実社会で実践する力と円滑にコミュニケーションを図る力を高める商業の学びの過程及び生涯にわたる継続的な学びの中で専門的能力を身に付けることの重要性について扱い、商業の学習に関してのガイダンスを行い、学習の動機付けを図る学習活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、放送など各種メディアの情報を活用するなどして、経済活動の具体的な事例を取り上げ、ケーススタディやグループでの分析や考察などにより経済社会の動向を捉える学習活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業の学習と職業との関連について扱い、卒業後の進路に関してのガイダンスを行い、自己の進路について考える学習活動を取り入れる。

商業科では、学習指導要領にマーケティング分野、マネジメント分野、会計分野、ビジネス情報分野、分野共通の科目が20科目示されており、これらの科目の関連付けを図り、高校入学から卒業後までを見通したキャリア教育を推進し、生徒のキャリア発達を促すことが望まれる。

実践例（商業科）科目「ビジネス・マネジメント」 単元名「ビジネスの創造と展開—事業計画書を作成—」【第3学年】

1（商業科）この単元のねらい

この単元は、起業家精神の重要性、起業の意義と支援体制及び事業目的や商号など定款記載事項の決定、事業計画書の作成、資金調達、登記など株式会社を設立するための手続きの概要について扱うこととなっている。そのために、既習の知識を活用して新しいサービスを提供する事業計画書を複数人で作成する実践例としている。この単元の内容は中学校の社会科公民分野のねらいである、「現代社会の見方、考え方」に沿った、社会に必要な様々な形態の起業を行うことの必要性や経済活動や企業などを支える金融などの働きが重要であることの学びの発展的な学習に通じている。

一つの例として、中学校社会科公民的分野の「B 私たちと経済」で扱う単元「市場の働きと経済」の中では「個人や企業の経済活動における役割と責任」として起業について触れるとともに、経済活動や起業などを支える金融などの働きについて取り扱うこととしている。また、社会に必要な様々な形態の起業を行うことの必要性に触れること、経済活動や起業などを支える金融などの働きが重要であることについて取り扱うことを意味しており、このような学習の関連性に留意するとよい。

起業家精神を学ぶことは、すべての人が企業を起こすことをねらいとするものではなく、専門的知識を活用して地域課題の解決に当たる専門高校の活動の中で、「このようなサービスや事業がある」といなどと考えたり、「できないから諦めるのではなく、どうしたらできるようになるのか」など、その方法を考えたりする「課題解決能力」の向上をねらいとしている。また、より多くの人と協力することにより、思いがけないアイデアに発展したり迅速に解決したりすることがあるため、複数人で協力して計画書を作成することにより「人間関係形成・社会形成能力」の向上もねらいとしている。

2 本実践とキャリア教育

本実践では、事業計画書を作成することを通して「キャリアプランニング能力」を育成することとしている。また、課題解決の方策としてアイデアを出すことや小グループでの活動となることから「課題解決能力」と「人間関係形成・社会形成能力」も育成する。

これらの学習を通して、社会や職業への理解の深化、社会参画への理解など、生徒のキャリア発達を促すことが望まれる。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

中学校での主な学習活動	主な学習活動	時数
○中学校 社会科 B 私たちと経済 「市場の働きと経済」	起業家精神の重要性とその支援体制について理解できる	1
	事業計画書の必要事項について理解できる	1
	会社設立の手続きについて理解できる	1
	様々なビジネスモデルを理解する	1
	会社設立の計画書を作成できる(本時)	1
	分担して課題解決につながる内容を伝えることができる	1

4 本実践（本時）の展開 「起業の意義と手続き」

学習内容に必要な知識はもちろん大切であるが、地域に着目し、社会を考えることにより、学ぶことと実社会のつながりを実感することができる。また、商業科目の他の教科・科目との関連に留意することにより、学習する重要性に気付くことができる。グループで取り組み、自己評価、他者評価を行うことにより自己理解につながる。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標や流れを確認し、学習の見通しをもつ。 ねらい：「学んだ内容を生かした事業計画を作成してみよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のゴールを設定する。 ☆ 他の商業科目で学んだ経済の仕組、マーケティングなどと関連した事業計画書・発表となることを完成目標とすることに留意させる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループになり、前時間に学習した斬新な成功ビジネスモデルを参考に、コンセプトを明確化した計画となるように個人のアイデアを出し合い、計画書を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループの中で進行、時間管理をする担当を決める。 ◇ プロジェクトを適切に管理し、ビジネスの創造と展開に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ◆ 商業における他の科目の学びが生かされている。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間の発表準備を整える。 ・単元の学習を振り返って自己・他者評価し、発表に向けた目標を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表の分担などを決める。 ◇◆ ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解している。

5 本実践のポイント

小・中学校で学んだ内容に加え、高等学校で身に付けた教科・科目の専門性との関連性をもった学びとすることを心掛けることにより学ぶ意欲の向上につながるといえる。また、グループ活動を通じた作業を行うことで、自己の得意なことを認知する「自己理解・自己管理能力」の育成や、合意形成を図りながら一つのを完成させる「人間関係形成・社会形成能力」の育成につながる事が期待できる。

事業計画書の作成に当たり、司法書士など専門家をアドバイザーとして授業に招へいすることにより、「キャリアプランニング能力」の育成につながる事が考えられる。

一つの事業計画書にグループの意見をその場で書き込みながら作成することが考えられるが、1人1台端末を活用して共同編集機能などを用いたまとめも有効である。

高等学校 情報科

1 情報科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

近年、情報技術は急激な進展を遂げ、社会生活や日常生活に浸透するなど、子供たちを取り巻く環境は劇的に変化している。今後、人々のあらゆる活動において、そうした機器やサービス、情報を適切に選択・活用していくことがもはや不可欠な社会が到来しつつある。それとともに、今後の高度情報社会を支えるIT人材の裾野を広げていくことの重要性が、各種政府方針等により指摘されている。そうした中、情報科は高等学校における情報活用能力育成の中核となってきたが、情報の科学的な理解に関する指導が必ずしも十分ではないのではないか、情報やコンピュータに興味・関心を有する生徒の学習意欲に必ずしも応えられていないのではないかといった課題が指摘されている。

こうしたことを踏まえ、小・中・高等学校を通じて、情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況など発信・伝達できる力や情報モラル等、情報活用能力を育む学習を一層充実するとともに、高等学校情報科については、生徒の卒業後の進路等を問わず、情報に関する科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが一層重要となってきている。

情報科は、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり資質・能力の3つの柱に沿って育成することを目指している。

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
・情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。	・様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

第5章 高等学校におけるキャリア教育の実践

2 情報科の指導内容とキャリア教育の考え方 ―基礎的・汎用的能力を視点に―

情報科では、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むとともに、情報と情報技術の問題の発見・解決に活用するための科学的な考え方等を育むことが求められている。情報科の指導において重視することは、情報の科学的な見方・考え方を働かせることである。情報科における「見方・考え方」とは、「事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用(プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等)により、新たな情報に再構成すること」である。

なお、情報科は、小・中・高等学校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育の中核であるから、カリキュラム・マネジメントを通じた、中学校の関連する教科等との縦の連携、高等学校の他教科・科目との連携も重要である。

基礎的・汎用的能力の育成に関連が深い情報活用能力を育む指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けて理解している。 ・通信サービスの特徴をコミュニケーションの形態との関わりで理解している。 ・社会の情報化が人間に果たす役割と及ぼす影響について理解している。 ・情報通信ネットワークの特性を踏まえ、効果的なコミュニケーションの方法を習得している。 ・情報の受信及び発信時に配慮すべき事項を理解している。 ・効果的なコミュニケーションができる。 ・情報社会を構築する上での人間の役割を考えようとしている。 ・情報社会と人との関わりについて理解を深めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの情報が公開され流通している現状を認識させるとともに、情報を保護することの必要性和そのための法規及び個人の責任を理解している。 ・コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得している。 ・情報社会の安全とそれを支える情報技術の活用を理解させ、情報社会の安全性を高めるために個人が果たす役割と責任を考えることができる。 ・情報社会に主体的に参画しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決における情報通信ネットワークの活用方法を習得している。 ・情報を共有することの有用性を理解している。 ・情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得している。 ・問題の発見、明確化、分析及び解決の方法を習得させ、問題解決の目的や状況に応じてこれらの方法を適切に選択することの重要性を考慮することができる。 ・様々な事象を情報とその結び付きとして捉えることができる。 ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力が身に付いている。 ・問題解決の過程と結果について評価し、改善することの意義や重要性を理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業選択、雇用と労働問題、社会保障の充実・安定化について理解している。 ・自立した主体となる個人を支える家族・家庭や地域などに着目して、世代間の協力、協働や、自助、共助及び公助などによる社会的基盤の強化などと関連付けて、課題を追究しようとしている。 ・情報を分かりやすく表現し効率的に伝達するために、情報機器や素材を適切に選択し利用することができる。 ・情報と情報技術を適切に活用できる。 ・情報システムとサービスについて、情報の流れや処理の仕組みと関連付けながら理解し、それらの利用の在り方や社会生活に果たす役割と及ぼす影響を考えようとしている。

実践例（情報科）単元名「情報社会の問題解決—今何をすべきかを考える—」【第1学年】

1（情報科）この単元のねらい

ここでは、情報やメディアの特性を踏まえ、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動を通して、問題を発見・解決する方法を身に付けるとともに、情報技術が人や社会に果たす役割と影響、情報モラルなどについて理解するようにし、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し、望ましい情報社会の構築に寄与する力を養うこととしている。

こうした活動を通して、情報社会における問題の発見・解決に情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、情報モラルなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする態度を養うことが考えられる。

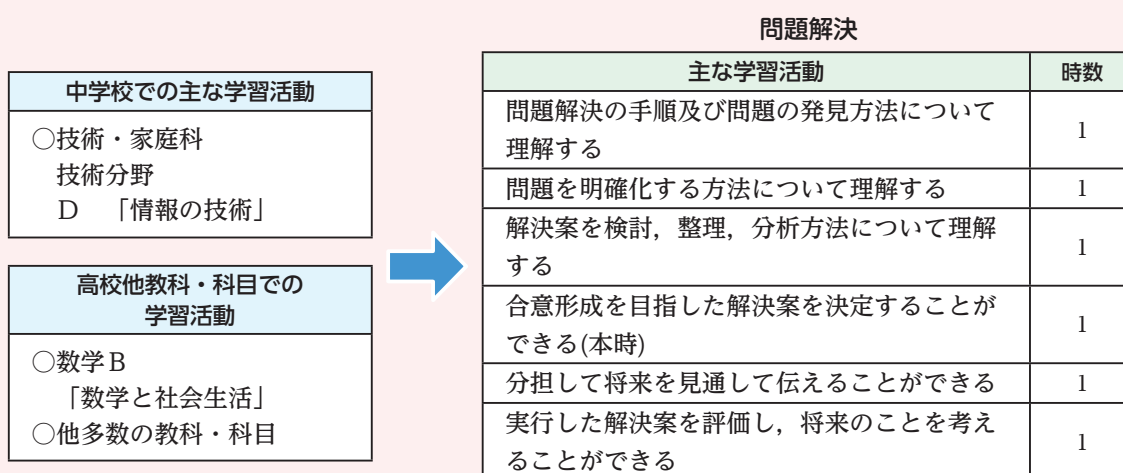
問題を発見・解決する方法については、中学校までの学習を踏まえて、情報と情報技術を活用した具体的な問題解決の中で扱う。情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどの指導に当たっては、中学校までの学習や高校における公民科をはじめ他教科・科目の学習との関連を図ることが大切である。

2 本実践とキャリア教育

本実践では、「課題対応能力」を育成する。問題解決を行う目的のために、見通しをもって手順を考えることが大切であり、グループで考えをまとめる手法は高校生活の様々な話合いの場面で応用することができ、合意形成を繰り返して最適解を求める実践につながる。なお、練習や発表などの活動の様子を動画で撮影することなどにより、次のことが期待できる。

- ・他者の発表だけではなく、自らの発表を見ることにより、客観的な振り返りをすることができ、自己評価を適正に行うことができ、評価改善につながる。
- ・何度でも見返すことができることから、生徒は相互評価を他のグループと比べることができ、互いの評価改善を促すことにつながる。
- ・できるだけ多くの生徒の活動を評価することができ、教師は自らの授業改善につなげられる。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



4 本実践（本時）の展開

PCやプログラミングを用いた問題解決の方法に入る前に、シンキングツールを活用して情報の収集や整理の方法、他者の意見を取り入れた分析の方法を学ぶ。題材は、学校生活を見通すことができる課題に取り組むことで、様々な波及効果が期待できる。グループでの取組を想定しており、自己評価、他者評価を行うことにより自己理解にもつながる。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標や流れを確認し、学習の見通しをもつ。 ねらい：「将来興味のある職業に就くために今（高校時代）何をすべきか」を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のゴールを設定する。 ☆ 問題解決の過程や高校生活を想像し、実行できそうな解決案を考えることを意識させる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で様々な場面を想定した考えを書き出す。 ・グループ内で発表しながらアイデアを貼り出す。 ・出された意見をグループ内でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ KJ法を用いる。 ○ 記号や色分け、グループ化で意見を集約する。 ◇ 個人あるいはグループで解決案を検討し、制約の中で最適な解決案を判断する。 ◇ グループで合意形成できるよう、適切な問題解決の計画を立案することができる。 ◆ 解決の方法を理解している。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間の発表準備を整える。 ・単元の学習を振り返って自己・他者評価を実施し、得られた評価により今後の目標につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表の分担を決める。 ◇ 3年間の高校生活を想像して場面が設定できている。 ◆ 問題の解決方法を用いて、発表につながるまとめができていないか。

5 本実践のポイント

このアイデア出しをグループで取り組むことで学校生活の見通しをもつことができることと、どの時期に何をすべきかといった高校生活の計画を立てやすくなるなど「課題対応能力」の育成につながる。また、グループ活動を通じた作業を行うことで、「自己理解・自己管理能力」の育成や、合意形成を図りながら一つのものを完成させる「人間関係形成・社会形成能力」の育成につながると考えられる。

グループによるKJ法を用いてアイデアを得る方法は、他の教科・科目でも応用が可能である。一般的に、使用する用具は模造紙と付箋を用いてまとめる方法が考えられるが、1人1台端末を活用した方法も考えられ、場所の制約を受けない手法として有効である。

ここでは一つの解決方法としてKJ法を用いることとしたが、目的に応じてアイデアを整理する方法として、様々なシンキングツールと組み合わせるなどの工夫も考えられる。

高等学校 総合的な探究の時間

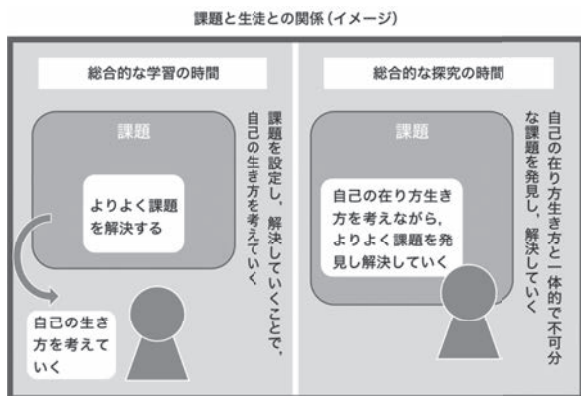
1 総合的な探究の時間を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

総合的な探究の時間では、各学校で目標や内容を定める際に、地域や社会との関わりを重視する。なぜならば、地域や社会と関わる課題は、自己の在り方生き方と不可分に結び付いたものとして捉え、そこに意味のある課題を発見することが比較的容易であり、自己のキャリア形成の方向性との関連も見えやすいなど、生徒の関心も高まりやすいからである。このことから、総合的な探究の時間はキャリア教育と深い関わりをもっていると言える。高等学校学習指導要領では、総合的な探究の時間の目標として次のように書かれている。

高等学校学習指導要領(平成30年告示)《抜粋》

第4章 総合的な探究の時間 第1 目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。



高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説【総合的な探究の時間編】より

左の図は総合的な学習の時間と、総合的な探究の時間における課題と生徒との関係を図にして比較したものである。

この図からも、高等学校の総合的な探究の時間は、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくことから、キャリア教育との関係が深いことが読み取れる。

社会の中で自分の役割を果たすことを考える際に重要なことは「自分はどのように課題を発見し、それを解決することでよりよい社会を創っていきたいのか」という問いである。この問いを見いだす際に、自己理解の深化や将来設計に加えて、総合的な探究の時間における「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」という学習経験が大きな役割を果たすことが考えられる。また高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編には「このような生徒の姿を実現していくに当たっては、生徒が取り組む探究がより洗練された質の高いものであることが求められる」ことが示されている。質の高い探究とは、①探究の過程が高度化する ②探究が自律的に行われの2つであり、②は「自分にとって関わりが深い課題」「得られた知見を活かして社会に参画しようとする」などの姿のことである。このように、総合的な探究の時間は、自己のキャリア形成の方向と関連付けながら学習を進めていくことから、キャリア教育と大きく関係すると言える。

第5章 高等学校におけるキャリア教育の実践

2 総合的な探究の時間の指導内容とキャリア教育の考え方 —基礎的・汎用的能力を視点に—

総合的な探究の時間においては、総合的な探究の時間の目標を踏まえて、各学校において目標や内容を定める。また、内容を設定するに当たり、目標を実現するにふさわしい探究課題の設定と、探究課題の解決を通じて育成を目指す資質・能力を定める必要がある。探究課題については、例として以下の4つの課題が示されている。

- ①国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
- ②地域や学校の特色に応じた課題
- ③生徒の興味・関心に基づく課題
- ④職業や自己の進路に関する課題

これらの探究課題において育てようとする資質や能力及び態度は「社会人・職業人として自立できる人間を育てる」ことを目標としているキャリア教育において、身に付けさせたい基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」の4つの具体的な能力と符合するものであると言える。そこで「職業や自己の進路に関する課題」を例にして、4つの能力の視点から関連を見ると、下記のように考えられる。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
○進路選択と社会貢献及び自己実現			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会のために自分は何ができるかという問いに対する自分なりの答えを出し、課題解決に向けた探究に取り組もうとしている。 ・自分で調べたことやまとめたことを相手や目的に応じて、適切に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会についての学習を通じて、自分の特徴やよさ、自分が興味関心をもつことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取材活動や調査等の情報収集について目的に応じて手段を適切に選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、将来の夢や志をもち、努力を継続することができる。 ・自らが地域や社会に対して貢献できることに気づき、進んで地域や社会の問題の解決に取り組もうとしている。

実践例（総合的な探究の時間） 単元名「身近な課題の発見と解決」

1 この単元のねらい

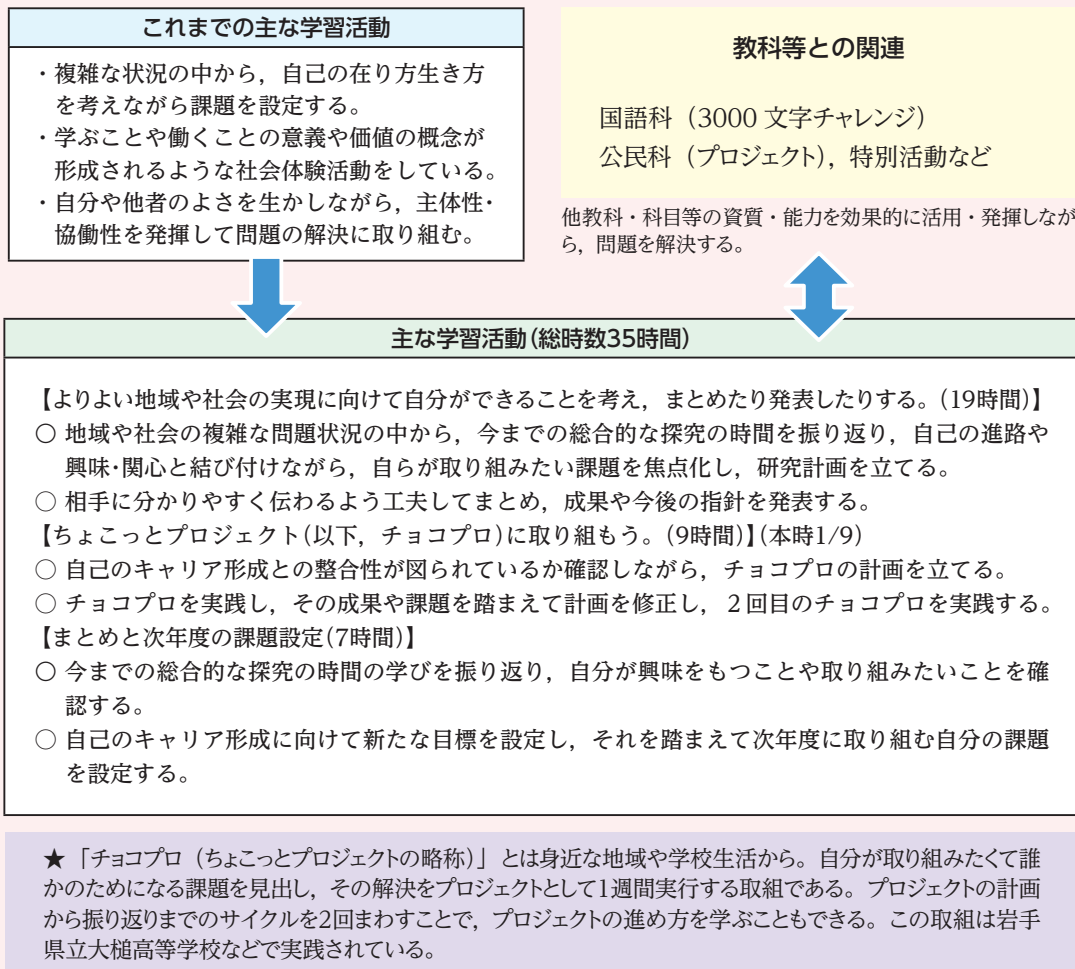
様々な学習を通じて、長い時間かけて明らかにしたい、自分の探究課題(自分事となるマイテーマ)を設定する授業である。ここで設定した自分の探究課題を次年度更に深め、社会に発信していくことになる。以下が本単元のねらいである。

- 論文を書く技能，進路についての知識，プロジェクトの進め方を身に付け理解している。
- 論文テーマや仮説，自分の将来や試行するプロジェクトの内容を考えることができる。
- 学んだことをつなぎ，探究サイクルをまわして自分の探究課題を設定しようとする。

2 本実践とキャリア教育

生徒たちは，様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら，自ら主体的に判断して課題を設定し，実際に課題解決に向けて計画を立てて行動する。こうした点で，本取り組みは「キャリアプランニング能力」の育成を目指している。なお第2学年の学習をふまえ，第3学年では，それぞれの生徒が自己の在り方生き方を考えて課題を設定し，卒業研究として取り組む。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



4 本実践（本時）の展開

<ねらい>

チョコプロの計画を立てることを通して、今後の行動指針を基に自己のキャリア形成に関する取組として具体化し、チョコプロに期待感をもって実践しようとしている。

《展開》 20/35時間(チョコプロ1時間目/全9時間)

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1 チョコプロ（★）の計画を立てることを確認する。	○1年間の学習における本単元の位置付けを確認。 ☆自分の興味・関心が将来につながる視点。
展開	2 やりたいことリスト50を作成する。（自分がやってみたいと思うことを50個書き出す） 3 やりたいことリスト50を、座標軸などを活用して分類したり比較したりする。 4 やりたいことリスト50を基にして、チョコプロの計画を立てる。	○コンセプトマップを活用するなどして、今後の行動指針と関連づけながらやりたいことリスト50を作成する。 ☆やりたいことリスト作成時に、自分の将来と関わりが深い取組は、印を付けるなどして可視化する。 ○プロジェクトの条件は、「誰かが喜ぶ」「1週間で取り組める」「計画的にできる」「自分がやりたい」の4つであることを確認する。 ◆やりたいことリスト50をプロジェクトの条件を踏まえて分類している。（ワークシート） ◇やりたいことリスト50を分類したことを手掛かりにして、自己のキャリア形成に関する取組として具体化している。（ワークシート）
終末	5 本時を総括してまとめる。 6 本時の振り返りをする。	○めあてを達成したかを確認する。 ○この時間の学びが自分にとって意味や価値があったと自覚する振り返りとする。

★チョコプロについては、前頁に補足説明あり。

5 本実践のポイント

やりたいことリスト50を作成する際に、ある程度書いたところで、「自分の進路に関わること」という視点を入れるのがポイントである。チョコプロを説明する際に、プロジェクトが自分の進路につながった先輩の例を示せば、生徒はよりイメージできるようになる。

またまとめ作成時では、国語科の書くことで身に付けた資質・能力を効果的に活用できるようにすること、プロジェクト実施時では、公民科で身に付けた資質・能力が効果的に活用できるようにすることの教科・科目等横断的な学習となる。本単元の学習活動と、特別活動の目標や内容がどのようにつながっているのかを記述するとよい。

高等学校 特別活動

1 特別活動を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

(1) 特別活動で育成を目指す資質・能力

特別活動は、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。その活動の範囲は学年、学校段階が上がるにつれて広がりをもっていき、そこで育まれた資質・能力は、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中で生かされていくことになる。このような特別活動の特質を踏まえ、指導する上での重要な視点が以下の3つの視点で整理された。

人間関係形成
集団の中で人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点である。必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見から実践、振り返りなど特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれる。
社会参画
集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとするという視点である。必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれる。
自己実現
現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点である。必要な資質・能力は、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の生き方を考え設計する力など、集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる課題を考察する中で育まれる。

今回の改訂では、各教科・科目等を通して育成することを目指す資質・能力として「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育むことを重視している。特別活動では、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、「思考力、判断力、表現力等」を発揮しながら他者と協力して実践することを通して、「知識及び技能」は実感を伴って体得され、活動を通して得られたことを生涯にわたって積極的に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」が涵養されていく。これらの三つの視点と基礎的・汎用的能力を踏まえて特別活動の目標及び内容を整理し、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を通して、育成する資質・能力を明確化して指導することが大切である。

(2) 生徒の活動を記録し蓄積する教材等(以下、「キャリア・パスポート」)の活用

キャリア教育は特別活動を要しつつ学校教育全体で行うものである。日常の教科・科目等の学習の指導においても、学ぶことと自己のキャリア形成の方向性とを関連付けながら、見通しをもって社会的・職業的自立に向けて基礎となる資質・能力を育成するなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進する必要がある。特別活動には、学校教育全体で行うキャリア教育の要の時間としての役割を明確にするため、また、小・中・高等学校を通してキャリア教育に系統的、発展的に取り組んでいくことを明確にするため、小学校段階からの学級活動及びホームルーム活動に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」が新たに設けられた。学級活動(3)の指導において、学校での教育活動全体及び家庭、地域での生活や様々な活動を含め、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習への

第5章 高等学校におけるキャリア教育の実践

意欲につながったり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことが必要であると示された。

こうした活動を行うに当たって、振り返って気付いたことや考えたことなどを、生徒自らが記述し、その記録を蓄積していく教材が「キャリア・パスポート」である。

2 特別活動の指導内容とキャリア教育の考え方 —基礎的・汎用的能力を視点に—

特別活動の指導に当たっては、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力を意識した指導が求められ、その指導を通して、キャリア教育が目指す社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育成し、キャリア発達を促すことにつなげるのが重要である。

次に一例として、特別活動の各活動及び学校行事の指導内容と基礎的・汎用的能力との関連を示す。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
ホームルーム活動	<ul style="list-style-type: none"> 自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮し、コミュニケーションを図りながらよりよい集団生活のつくり方を理解している。 ホームルーム生活の充実や向上のため、生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担して、協力し合い実践することができる。 男女相互について理解し、協力して充実した生活づくりに参画しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動することができる。 心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームや学校における生活を向上・充実させるための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践しようとしている。 学校における多様な集団の生活を向上させようとしている。 我が国と他国の文化や生活習慣などを理解し、主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を探究しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活と社会的・職業的自立の意義を意識しながら、学習の見直しを立て、振り返ろうとしている。 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観を形成しようとしている。 学校図書館等を活用し、自分にふさわしい学習方法や学習習慣を身に付けている。 主体的な進路の選択決定のために、進路に関する適切な情報を収集・整理して考えることができる。
生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢で構成される組織における活動の意義を理解している。 生徒が主体的に組織をつくり、学校生活の課題を見だし解決するために話し合い、合意形成する仕方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の特質に応じて、生徒会の組織を活用して、運営に主体的に協力しようとしている。 学校行事の意義、生徒会としての組織づくりや全校生徒で協働を図る仕組みを理解し、方法を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の課題を見だし解決するために話し合う行動の仕方を身に付けている。 地域・社会の課題を解決するために、生徒会の組織を生かして取り組むことができる具体的な対策を考え、主体的に実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動などの社会参画を通して、地域や社会の課題を見だし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画することができる。 地域・社会の形成者として、よりよい地域や社会の生活づくりに参画しようとしている。
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事を通して集団や自己の生活上の課題を結び付け、人間としての在り方生き方について考えを深め、人間関係や集団をよりよく形成しようとしている。 他の生徒と協力して日頃の学習や活動の成果を発表したり、美しいものや優れたもの、芸術的なものや我が国の伝統文化に触れたりして、自他の個性を認め、互いに高め合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の意義や行事における活動のために必要なことを理解し、規律ある行動の仕方や習慣を身に付けている。 勤労の意義や尊さ、社会的・職業的な自立について理解し、ボランティア活動などの仕方について必要な知識及び技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生活を振り返り、健康、安全、防災、運動や体力の向上に関する課題と解決策について考え、他者と協力して、適切に判断し行動することができる。 心身の健全な発達や健康の保持増進、災害等の非常時から身を守ることの意義を理解し、必要な行動の仕方などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の節目の場において将来を見通したり、これまでの生活を振り返ったりしながら、新たな生活への自覚を高め、気品ある行動をとることができる。 勤労生産や奉仕に関与する活動に積極的に取り組み、勤労観・職業観を醸成し、社会に貢献しようとしている。

実践例1（特別活動 ホームルーム活動） 題材名「高校1年生の目標設定」

1（ホームルーム活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現）この題材のねらい

- (1) 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けるようにする。
- (2) 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くとともに自らの意思と責任で進路の選択決定ができるようにする。
- (3) 将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとする態度を養う。

2 本実践とキャリア教育

学期末や学年末あるいは進路に関する面談において、自身のこれまでの学びや体験を具体的に語れる生徒は意外と少ない。このような実態を踏まえ、基礎的・汎用的能力の育成を通して「3年間の歩みを語れる」生徒の育成を目指したい。その指導の中核をなす教材が「キャリア・パスポート」である。「キャリア・パスポート」を活用することで、各教科・科目等における学習や特別活動において学んだこと、体験したことを振り返り、気付いたことや考えたことなどを適時蓄積することができる。それらをホームルーム活動においてまとめたり、つなぎ合わせたりする活動を行うことにより、各教科・科目等の学びと特別活動における学びが往還し、教科・科目等の枠を超えて、それぞれの学習が自己のキャリア形成につながっていくことが期待できる。

本時では、中学校から引き継がれた「キャリア・パスポート」を活用して中学校での学習や生活を振り返るとともに、高等学校の教育活動を見通しながら、今後の目標と手立てを考察する。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

時期	主な学習活動	時間
年度始め	エンカウンターを行い、高等学校での新たな人間関係づくりを構築する。(事前準備)	1
	《中学校の振り返りと高等学校の目標設定》 ・中学校の「キャリア・パスポート」を振り返り、高校生活の目標を定める。 ・グループでの話し合いを通じて自己理解・他者理解につなげる。	2 (本時)
1学期末	《1学期の振り返りと2学期の目標設定》 ・1学期の成果と課題を確認し、2学期の目標を定める。	1
2学期末	《2学期の振り返りと3学期の目標設定》 ・2学期の成果と課題を確認し、3学期の目標を定める。	1
学年末	《1年間を振り返り成果と課題を確認させ、2年生への目標を定める》 ・「キャリア・パスポート」に記載された担任からのメッセージに対するコメントを書く。	1

4 本実践（本時）の展開

《本時のねらい》

- ・中学校の「キャリア・パスポート」を振り返り、自分を見つめ、目指すべき自己の将来像を描くことができる。
- ・生涯にわたって段階的な目標の達成と、自らの社会的・職業的自立に向けて努力しようとする。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	※アイスブレイクを行う。 1 中学校、高等学校の「キャリア・パスポート」を配付し、本時の流れを理解する。 2 「キャリア・パスポート」のねらい、高校生活で伸ばしたい力について理解する。 3 高等学校では、今後どのような活動があるのかを確認する。	○ 話しやすい雰囲気をつくる。 ○ 「キャリア・パスポート」の意義やねらいを伝える。 《伸ばしたい力》 基礎的・汎用的能力に基づいて、学校が設定した目標を説明する。また、生徒が校訓や校是、学校教育目標との関連性を意識できるようにする。 ○積極的に様々な活動に挑戦するよう伝える。
展開（1時間目）	4 中学校の「キャリア・パスポート」を参考にして、「自分自身のこれまでを振り返ろう」「今の自分自身についてまとめよう」を記入する。 5 グループで話し合い、互いに発表し共有する。 6 「高校3年間の目標」を立てる。	◇◆中学校の「キャリア・パスポート」を振り返り、目指すべき将来像を描くことができたか。 《話し合いのルール》 ・多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見は否定しない。 ・話したくない内容は、無理に話さなくてもよい。
展開（2時間目）	7 「高校3年間の目標」を基に「1年生の目標」を立て、その目標を達成するために「1学期の目標」の具体的な取組と手立てを考え、グループ内で共有する。 8 グループ内の一例を発表し、クラス全体で共有する。また、他グループの発表を聞いて、気づきをまとめ、自分の目標を修正する。	☆クラス全体で共有することで、新たな気づきを促し「高校3年間の目標」「1年生の目標」「1学期の目標」の修正につなげる。 ◇◆自らの社会的・職業的自立に向けて努力しようとする態度が見られたか。
終末	9 1学期の終わりに、1学期の振り返り、2学期の取組・手立てを記入することを確認する。	○ 記入した「1学期の目標」や「1年生の目標」を意識して高校生活を送るように伝える。

5 本実践のポイント

- アイスブレイクなどを活用し、互いにコミュニケーションがとりやすい雰囲気をつくる。
- 中学校の「キャリア・パスポート」を振り返り、生徒が自身の成長や課題を確認することで、高校生活へのつながりを意識できるようにする。
- 曖昧な目標にならないように、数値目標が可能なものは具体的に書くよう助言する。

1（ホームルーム活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現）この題材のねらい

- 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けるようにする。
- 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くとともに自らの意思と責任で進路の選択決定ができるようにする。
- 将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとする態度を養う。

2 本実践とキャリア教育

変化の激しい社会において、将来直面する様々な課題に柔軟に対処し、社会的・職業的に自立していくためには、生徒一人一人が、学ぶこと、働くこと、そして生きることについて考え、それらの結び付きを理解し、他者と協働しながら自分なりの人生を創っていく力が求められている。本実践は、「キャリア・パスポート」を活用して自己理解を深化させた上で、人生グラフを利用して将来を見通す活動である。一連の活動によって生徒は自らの在り方生き方について考えを深め、自らの課題を見だし、新たな学習や生活への具体的目標を設定していく。この活動は個々の自己実現に関わる内容であり、例えば、自らの将来において予想される困難や課題を乗り越えられるよう、これからの学習の見通しをたてる「キャリアプランニング能力」の育成を目指すことができるものといえる。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

	主な学習活動
事前指導	○ 入学から継続して「キャリア・パスポート」を記入する。
本時 (2時間)	○ 卒業年度の目標設定 ・ これまでの「キャリア・パスポート」を振り返り、自己理解の深化を図る。 ・ 30歳までの人生グラフ※を作成し、共有する。 ・ 自己理解と人生グラフの作成・共有を振り返り、目標を具体的に設定する。
事後指導 (1時間)	○ 自己アピール文の作成 ・ 前時の学びを振り返り、学んだことをどういう場面で生かせるか、どう生かしていきたいかを具体的にアピールする。 ・ 進路学習や面談に向けた取組としても可。

※人生グラフとは、横軸に年齢、縦軸に幸福度として、起こり得るライフイベントとその時の幸福度を想像してプロットし、それらをつなげて作成する折れ線グラフのことである。

4 本実践（本時）の展開

<本時のねらい>

- ・「キャリア・パスポート」を活用し、自己理解の深化を図ることができる。
- ・今後の学校生活の充実と、社会的・職業的自立に向けて主体的に行動目標を設定しようとする。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1 本時のねらいを確認する 2 「キャリア・パスポート」を準備する。	○ 自分と素直に向き合うことが大切であることを伝える。
展開 （1時間目）	3 「キャリア・パスポート」を振り返り、自分が成長したこと、身に付いた力をできるだけ多く抜き出す。 4 3の中からトップ3を選び、それらの力がどのような場面で身に付いたか、生かされたかを表にまとめる。（ダイヤモンドランキングなどで順位を決めるとよい）	○ 最初の抜き出しは、簡条書きでもいいのでたくさん書くよう指示する。 ◇◆ 自分のよさ、成長についてまとめることで自己理解を深めることができたか。 ☆ 学校生活が自分の成長につながっていることに気付く。
展開 （2時間目）	5 30歳までの人生グラフを作成する。 ※卒業時の自分の姿をイメージする。 ※必ず挫折イベントを2つ入れる。 ※4の表を根拠にその挫折を乗り越えるようにする。乗り越えられない場合があってもよい。その場合はどんな力が必要かをメモする。 6 5のグラフをグループで共有する。 7 5のグラフを通して30歳の自分を見通した上で、これまでの自分、1年後（卒業時）の自分を意識し、これから始まる3年次では何をすべきか、具体的な行動目標を考える。	○ 「1時間目で自己理解を深め、自分のよさや身に付けた力を発揮して困難を乗り越えるグラフをかく」＝「これまでの学びとこれからを結び付ける」であることを説明する。 ○ グラフがかけない生徒のために、ライフイベントをいくつか提示する。 ○ これまでの自分、30歳の自分、その途中にある1年後の自分、それぞれの節目を意識し、それらがつながっていることを強調する。 ◇◆ 自らの社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力の育成と学校生活がつながっていることを理解し、自らの将来に向けて学校生活をより充実させようとしていたか。
終末	8 本時を振り返る。 9 今後の流れ（本時の活動を自己アピールにつなげていくこと）を確認する。	○ 3年次の行動がその先に大きく影響すること、目標の達成に向けて意識して行動することが自己実現につながることを伝える。

5 本実践のポイント

- 「キャリア・パスポート」を活用した振り返りを生かして人生グラフを作成させることで、自分の能力や強みを将来どのように生かせるのか、また挫折をどう乗り越えていくのかを考えさせることができ、今の自分と将来とを結び付けることにつながる。
- 人生グラフの作成および他者との共有から、理想と現実の差を意識させ、卒業時の自分の姿を明確にさせることで3年次の具体的目標の設定につなげる。
- 本実践後に行う自己アピール文の作成では、本実践での取組（人生グラフの作成等）を参考に、何をしたかの羅列ではなく、どのような力が身に付いたか、大学や仕事において自分の強みや今の学びをどう生かして社会に貢献していくか等を具体的にアピールするよう意識させることが重要である。

実践例3（特別活動 ホームルーム活動） 題材名「よりよい学校づくり」【全学年】

1（ホームルーム活動（1）ホームルームや学校における生活づくりへの参画）この題材のねらい

- ホームルームや学校の生活を向上・充実させるために諸問題を話し合っ解決することや他者を尊重し、協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- ホームルームや学校の生活を向上・充実させるための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、ホームルームや学校における生活や人間関係をよりよく形成し、多様な他者と協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとする態度を養う。

2 本実践とキャリア教育

民法改正により成年年齢が18歳に引き下げられ、生徒には社会の形成者としての自覚と、よりよい地域や社会の生活づくりに参画するための資質・能力がより一層求められている。

特別活動は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力の育成を目指す教育活動である。

本実践は、生徒が学校における多様な集団生活の目標やきまり等を理解した上で、学校の形成者として学校生活の向上のための課題を見だし、話し合い、合意形成を図り、ホームルームとしての提案や取組を決める活動である。この活動を通して、他者と協力しながら学校という社会の生活づくりに参画することで、自らが社会の担い手であるという自覚を醸成していくことが期待できる。同時に、キャリア教育における基礎的・汎用的能力においては、多様な他者とよりよい人間関係を形成し、協働して取り組むことができる「人間関係形成・社会形成能力」、学校生活の充実と向上を図るための諸課題を解決しようとする「課題対応能力」の育成につながるものであるといえる。

3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

主な学習活動	時数
生徒総会へ提出するための議案書を作ろう	本時 (1時間)
出された議案書をまとめよう (各種委員会, 生徒会執行部)	放課後等
生徒総会	1時間
振り返り(「キャリア・パスポート」)	1時間

<特別活動 / ホームルーム活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現>

<特別活動 / 生徒会活動>

<公共>

<家庭総合>

4 本実践（本時）の展開

<本時のねらい>

- 学校の形成者としての自覚と、よりよい学校の生活づくりに責任をもって主体的に取り組むことの重要性を理解している。
- 学校生活の課題を見だし、解決するための方法を考え、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して取り組むことができる。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科・科目等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の流れと意義について確認する。 2 事前課題「これまでの学校生活を振り返り、よいところと改善すべきところ」の集約結果を共有する。（課題は事前にICTを利用して提出しておく。） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 改善すべき課題点ばかりでなく、よいところも意識させ、よりよい学校づくりにつながるようにする。 ○ 生徒が事前に提出した内容を整理し、プロジェクター等で提示する。 ○ 4名～5名のグループとする。
展開	<ol style="list-style-type: none"> 3 2で出された課題についてピラミッドチャートを使って検討し、改善すべき課題を1つに決める。 4 3の課題の改善案をグループで話し合う。議案書で提案したい改善案を整理し、提案すべき事柄を1つ決める。 5 各グループ1分プレゼンを行い、ホームルームで共有する。 6 5で発表された案について①よりよい学校生活にするために必要なことか、②実現可能か、③自らも主体的に協力できるか、の視点で評価し、賛同できるものを選択し、その理由を発表し合う。 7 6の結果を参考に、生徒総会に向けたホームルームの提案を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思考ツールを利用して、話し合いが深まるように支援する。 ☆ 見いだした課題に対する実行可能な解決策を具体的に考えることを確認する。 ◆◇ 見いだした課題の改善策について、学校という社会の形成者として主体的に行動できるか、賛同できるかという視点で議論に参画している。 ○ 少数意見にも耳を傾け、安易な多数決にならないように留意する。また、なぜその案に賛成なのかを丁寧に話し合うことにより、生徒自身が学校という社会の形成者としての自覚と納得感をもてるようにする。
終末	<ol style="list-style-type: none"> 8 本時の振り返り 9 他のクラスから提案される事柄についても、自分事として考えることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆◇ 学校という社会の形成者としての自覚と責任をもって、授業に参加している。社会参画の大切さを理解している。 ○ 生徒総会においては当事者意識をもち、学校生活の向上のために必要かどうかを考えながら参加することが重要であることを確認する。

5 本実践のポイント

ホームルーム活動の話合い活動などを通して育成した資質・能力は、自発的、自治的な活動を行う上で基本となるものである。本実践によって、生徒一人一人が集団の一員としての自覚をもってやるべきことを明確にすることで、自発的、自治的な活動につなげることができる。また、本時のホームルームでの活動、それを基にした生徒会執行部や各種委員会での話合い、生徒総会、そして総会後の振り返りと具体的な目標設定までの一連の流れを通して、一人一人が参画する活動が、生徒会活動を活性化し学校生活の充実につながることで、さらには将来の社会的自立に必要な不可欠であることも体感をもって理解させたい。